

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東北大学			
主な交流先	英国			
事業名	【和文】	レジリエントな社会を創造する日英米大学の国際連携		
	【英文】	International Collaboration between Japanese, British, and American Universities to Create Resilient Societies.		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	山口 昌弘	(所属・職名) 副学長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://web.tohoku.ac.jp/resilientsocieties/				

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	20	20	30	35	40	45	47	50	145	160
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	3		10	10	15	20	20	25	22	30	70	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	5	5	10	5	10	5	10	5	10	5	45	25
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)		5		5	5	10	10	15	15	15	30	50

●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)											0	0

●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	10	20	20	30	35	40	45	47	50	145	160
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	3	0	10	10	15	20	20	25	22	30	70	85
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	5	5	10	5	10	5	10	5	10	5	45	25
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	0	5	0	5	5	10	10	15	15	15	30	50

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	21	16	53	35	60	43	0	0	0	0		
実際に渡航した学生(以下「実渡航」)	21	11	53	35	55	34						
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生(以下「オンライン」)	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B 5	B	B	B	B 9	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生(以下「ハイブリッド」)					5							
達成目標に対する実績の割合	263%	160%	265%	175%	200%	123%	0%	0%	0%	0%		

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		16	0	49	25	51	30	0	0	0	0
	実渡航	16		49	25	46	30				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		1	5	3	10	5	4	0	0	0	0
	実渡航	1	5	3	10	5	4				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		4	11	1	0	4	9	0	0	0	0
	実渡航	4	6	1		4					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・英国・米国連携校との中長期海外派遣プログラム：英国連携校のヨーク大学へ2名、イーストアングリア大学（UEA）へ3名、交換留学で本学学生を送り出した。

・英国連携校との短期海外派遣プログラム：英国ヨーク大学で、本学学生向けの多様性・公正性・包摂性（DEI）とエンプロイアビリティにフォーカスしたプログラム及び国際工学研修プログラムを開催、合計46名が参加した。同じく英国連携校のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）には、先方が主催するサマースクールへの派遣で3名の学生を送り出すとともに、大学院生の研究留学を実現した。

以上の通り、事業連携校との間で長年構築してきた連携の基盤を活かしながら、目標数を大きく上回る短期、中長期の留学派遣を着実に実現することができた。海外の大学へ留学する学生には、渡航前に相談会や複数回の事前・事後研修を行い、留学の目的や現地での達成目標を明確化させ実渡航が効果的な学びの機会となるよう支援を行っている。

今後さらに、学生のニーズに沿った多様かつ意義ある学生交流プログラムやインターンシップの開発を行うことにより、学生の国際経験を通じた「グローバル・レジリエンス・マインドセット」の涵養を促進し、レジリエンス社会の創造に資するグローバルリーダーの育成を進める。

【特に優れた取組】

・英国UCLとは、これまで締結していなかった授業料相互不徴収の学生交流協定を新しく取り結ぶ動きが起り、一年強の協議・調整を経て2025年7月に調印に至った。本事業による取組の大きな成果と言える。これに先立ち、学内初のUCL説明会を開催するなど、学生の留学先の選択肢として認知度を高める広報を行っているところである。

・社会のレジリエンス向上に欠かせないDEIや人権について学び、レジリエンスマインドセットを持ったグローバルリーダーを育むUEAへのファカルティレッド(教員引率)型派遣プログラムを新規開発した。事前研修としてオンランでつないだ現地学生との国際共修を取り入れ、オンラインと実渡航のハイブリッドで教育提供を行った。90%以上の学生が満足と評価している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・英国・米国連携校との中長期受入プログラム：英国連携校のヨーク大学から2名、UEAから1名、米国・ワシントン大学から1名の学生が交換留学生として渡日し、本学で学んだ。受入にあたっては、渡航前から入国管理に関する情報提供と手厚いサポートを行うとともに、来日後はプログラム別のオリエンテーションの他、国際サポートセンターや留学生ヘルプデスクによる受入レポート、メンターによる相談体制をとっている。

・英国・米国連携校との短期海外受入プログラム（実渡航）：グローバル・レジリエンス・マインドセットを涵養する短期プログラムとして、理工系サマー・インスティテュート(TSSP)、日本語ショートプログラム(TUJP)、工学系プログラム(TESP)を夏季に開催し、合計26名の事業連携校学生を受入れた。プログラム参加者は各プログラムのテーマを学びながら、南三陸や仙台荒浜等の津波被災地フィールドワークを行うとともに、日本語学習を含めた日本文化を体験したり、DEIに関するセッションを含めた様々な活動で本学学生と共修した。

・英国・米国連携校との短期海外受入プログラム（オンライン）：前年に開講したオンラインのトライアルコースを改良し、日本への渡航予定や渡航を検討する事業連携校の学生を対象としたオンラインフィールドスタディ準備日本語講座を開講した。2024年度は6名の学生が参加した。毎回の授業で本学1年生との言語練習・国際共修の機会を設け、双方の交流と学びの経験とした。

連携大学との相互訪問や国際会議を活用した協議等を重ね、連携を進展させたことにより、以上の通り目標数を大きく上回る短期、中長期の留学生受入れを実現することができた。

【特に優れた取組】

・UCLから受入れたインターンシップ学生達が成果報告を兼ねた学生主体のワークショップを実施し、本学の学生だけでなく、ヨーク大学、UEAのような当事業連携校の学生や研究者、本学教職員も多く参加した。震災復興や伝承、社会のレジリエンスについて多国籍の学生による活発な意見交換が行われ、実りの多いイベントとなった。

・プログラムの成果を世界に発信するため、インターンシップや理工系プログラムの参加学生の声を集めた動画を作成し、JV-Campusで発信している。

(2) インターシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（Ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	3	10	8	14	11	17	13	45	35
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）			4	3	7	6	8	7	9	9	28	25
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）					2		2		2		6	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）					1	2	4	4	6	4	11	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（Ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（Ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	3	10	8	14	11	17	13	45	35
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	0	0	4	3	7	6	8	7	9	9	28	25
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	0	2	0	2	0	2	0	6	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	1	2	4	4	6	4	11	10

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（Ⅲ）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	1	0	8	1	6	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）		1		8	1	6				
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A		A		A		A		A	
	B		B		B		B		B	
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）										
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	#DIV/0!	0%	267%	10%	75%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航 A(学部生)	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航 B(大学院生)	0	1	0	4	0	2	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航 B(大学院生)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

- ・ヨーク大学への短期プログラムにおいて、教育内容にエンプロイアビリティを組み込み、インターンシップへの興味・関心、実践力を高めている。
- ・引き続き、短期プログラムに参加している学生が経験できるインターンシップを提供すべく、派遣先の大学担当者・企業等と協議を進める。中長期留学の学生向けでは、連携校との国際共同研究等の基盤を活用した新たなインターンシップ先の開拓を積極的に行う。また、大学の研究室に所属しながら研究インターンシップを行う派遣プログラムへの参加を促進する。

【特に優れた取組】

- ・短期プログラムに参加している学生が経験できるインターンシップを提供すべく、英国の連携校担当者と同難な調整を進めてきた。その努力が実り、2025年夏実施分の人権をテーマとしたUEAで開催したファカルティレッド（教員引率）型派遣プログラムにて、現地ソーシャルワーク団体における就業体験のセッションを複数追加することが可能となった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

- ・中長期留学の学生が、本学の研究室に所属しながら研究インターンシップを行う受入プログラムを実施し、2024年度はヨーク大学から2名の学生を受入れた。
- ・2024年6～7月には、2度目となる東日本大震災被災地のフィールドスタディ型インターンシップを実施し、UCLリスク&防災学科(The Department of Risk and Disaster Reduction - RDR)の学生4名を本学災害科学国際研究所にて受入れた。学生達は施設訪問や企業・団体訪問調査、地元住民からの聴き取り調査、文化体験等を行い、東日本大震災の複雑な被害や被災からの復興と防災についての学びを本学学生との国際共修ワークショップで報告した。2025年度からは災害科学国際研究所の他にスタートアップ事業化センターが共催し、被災地からのソーシャルイノベーションをテーマの一つに加えている。活動報告やワークショップの様子はJV-Campusに掲載し、国内だけでなく環太平洋やインド太平洋地域の学習者へも届けている。なお、本プログラム参加学生は英国のTURING SCHEMEによる支援を受けている。

【特に優れた取組】

- ・2025年夏より米国の連携校ワシントン大学の学生を主な対象としたSTEM分野の6週間の研究インターンシッププログラム（T-SRIP）を新たに開始し、7名の学生を受入れている。本学の世界トップクラスの研究施設において、学部生が高度な科学研究プロジェクトの一部に参画する機会を提供している他、日本語と文化の授業や被災地へのフィールドトリップも実施し、グローバル・レジリエンス・マインドセットを持ったリーダーの育成に貢献している。
- ・本学災害科学国際研究所にて受入れたUCLリスク&防災学科(RDR)のインターンシップ学生4名を、藤崎百貨店(仙台市)と共同で実施する防災訓練に派遣し、多様な人達に向けた防災の対応や案内について協議を行った。当該イベントは仙台市・協力の下実施されており、防災環境都市における多文化共生の推進に貢献している。

(4) 任意指標 ※タイプA②・B②のみ

① 本事業で設定している任意指標

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

② 2024年度末における目標の達成状況

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
(指標1)					
(指標2)					
(指標3)					
(指標4)					
(指標5)					

③ 進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	3	2	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東北大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	A(学部生)	5	9	14	14	19
	認定単位数	A(学部生)	10	22	36	36	46
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)	2	7	9	14	14
	認定単位数	A(学部生)	4	18	26	36	36
イーストアングリア大学	認定者数	B(大学院生)		1	2	3	3
	認定単位数	B(大学院生)		4	8	12	12
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	認定者数	B(大学院生)		1	1	2	4
	認定単位数	B(大学院生)		4	4	8	16
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)	1	1	2	3	3
	認定単位数	A(学部生)	2	4	8	12	12
ワシントン大学	認定者数	B(大学院生)		1	2	4	4
	認定単位数	B(大学院生)		4	8	16	16
年度別認定者数合計			8	20	30	40	47
年度別認定単位数合計			16	56	90	120	138

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	0	3	3	3	4				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東北大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨーク大学	認定者数	A(学部生)	16	47	43		
	認定単位数	A(学部生)	32	94	71		
イーストアングリア大学	認定者数	A(学部生)			5		
	認定単位数	A(学部生)			10		
イーストアングリア大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	認定者数	A(学部生)		1	3		
	認定単位数	A(学部生)		2	6		
ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	認定者数	B(大学院生)		1			
	認定単位数	B(大学院生)		2			
ワシントン大学	認定者数	A(学部生)		1			
	認定単位数	A(学部生)		6			
ワシントン大学	認定者数	B(大学院生)					
	認定単位数	B(大学院生)					
年度別認定者数合計			16	50	51	0	0
年度別認定単位数合計			32	104	87	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	岐阜大学			
主な交流先	インド			
事業名	【和文】	グローバルJDPプラットフォーム形成による北東インド・東海圏における実践力のある高度人材育成		
	【英文】	Education for Highly-Skilled Human Resources in Northeast India and Tokai Area based on Glocal JDP Platform		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	リム リーワ	(所属・職名) 岐阜大学・副学長（国際展開・多様性・ジェンダー(男女共同参画)(副)・図書館(副)担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/jdp-platform/>

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8	22	29
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4	40	20
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8	22	29
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4	40	20
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	23	31	23	34	26	36	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	10	6	12	11	10	6						
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 2	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A		
	B 9	B 4	B 6	B 1	B 7	B 4	B	B	B	B		
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	2	21	5	22	9	26						
達成目標に対する実績の割合	192%	207%	144%	213%	118%	180%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの											
B	もともとオンライン実施で準備していたものの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	2	0	5	1	8	1	9	1
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	2	7	3	8	5	9	7	11	10	13
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	オンライン	2	4	3	4	4	6	6	7	7	8
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	8	4	8	4	8	4	8	4	8	4
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度						
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入					
【交流形態別 内訳】																
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B					
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B					
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	4	21	5	22	8	26	0	0	0	0					
	オンライン	A	2	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B					
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	10	6	10	6	10	6	0	0	0	0					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B					
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	9	4	6	1	7	4	0	0	0	0					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	9	B	4	B	6	B	1	B	7	B	4	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A					
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B					

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・スプリングプログラム参加者10名が、アッサム州を代表する国立公園見学や民俗博物館、自然農法の普及センターや生物農薬メーカーなどの見学を通じて、多様性に富むインド文化を学んだ。また、IITGのデザイン学科でのジュート(黄麻)の活用方法のワークショップや、IITGでのJDP関連学科を中心としたラボツアーに参加した。スプリングプログラムは、募集人員10名(うち自費参加3名)の募集に対して40名以上の応募があった。

Webサイト：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/springschool/>

・オンライン交流プログラム(オンラインでのビデオストーリー作成を通じた共修プログラム)参加者16名(岐阜大学：7名、IITG：4名、マレーシア国民大学：5名)が、三カ国混合4チームにわかれ、7月中旬から約5ヶ月間取り組んだ。2024年度の大テーマを「Thinking about SDGs」とした。参加学生のSDGsに対する理解を深めるため、プログラムに先立ち特別公開講義を開講した。各チームは、12月に完成動画とその作成経緯のプレゼンテーションをコンペティション形式で発表した。

作品：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/vidiomaking/>

・グローバル・エキスパートプログラムでは、プログラムの人材育成目標(地球規模の問題意識をもち地域課題を解決する能力を有する修士課程レベルのグローバル高度人材を育成)に向けて設計した専門科目であるGlocal Theory(1単位、オンデマンド講義)とGlocal Practice(1単位、国際共修、対面およびオンライン双方向講義)を開講した。これら2科目に対する学生のレポート評価については、ルーブリックに基づき岐阜大学教員及びIITG教員が共同で行った。当プログラムは、本学の学生4名及びIITGの学生20名が受講した。

【特に優れた取組】

・スプリングスクール期間中に開催したグワハティでのシンポジウムでは、日印双方の企業によるSDGsや脱炭素に関する生物系及びスマートマニファクチャリングに関連する学術発表が行われ、J学生及び短期派遣学生(スプリングスクール)も参加した。学生は、シンポジウムの参加を通じて、国際的な議論や学術動向を学ぶことができたと考えられる。また、本プログラムを通じて現地学生との交流により、日本人学生のインド・アッサム地域の理解が深まり、今後の長期留学プログラムへの進学者の増加も期待できる。

なお、当プログラムは、募集人員10名のうち、3名は自費渡航での募集であったが、自費渡航枠も含めて定員を満たしており、学生の関心は高い。さらに、本プログラムに参加した学生が、JDP(自然科学技術研究科修士課程)に進学するなど、優秀な学生の確保にも繋がっている(2022年度参加者から2名、2023年度参加者から1名が進学)。2025年度も本取り組みを実施する予定である。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・ウィンタースクール参加者8名(IITG6名、UKM(マレーシア国民大学)2名)が、岐阜大学日本語・日本文化教育センターによる日本語・日本文化研修及び研究体験、岐阜県八百津町の地域理解研修、企業見学(岐阜、名古屋、東京)により、日本文化、地域や企業の理解を深めた。また、学生は同時期に開催中の岐阜JDPシンポジウムに参加するとともに、同シンポジウム参加企業や本学学生との交流も行った。

・オンライン交流プログラム(オンラインでのビデオストーリー作成を通じた共修プログラム)参加者16名(岐阜大学：7名、IITG：4名、マレーシア国民大学：5名)が、三カ国混合4チームにわかれ、7月中旬から約5ヶ月間取り組んだ。2024年度の大テーマを「Thinking about SDGs」とした。参加学生のSDGsに対する理解を深めるため、プログラムに先立ち特別公開講義を開講した。各チームは、12月に完成動画とその作成経緯のプレゼンテーションをコンペティション形式で発表した。

作品：<https://www.glocal.gifu-u.ac.jp/vidiomaking/>

・グローバル・エキスパートプログラムでは、プログラムの人材育成目標(地球規模の問題意識をもち地域課題を解決する能力を有する修士課程レベルのグローバル高度人材を育成)に向けて設計した専門科目であるGlocal Theory(1単位、オンデマンド講義)とGlocal Practice(1単位、国際共修、対面およびオンライン双方向講義)を開講した。これら2科目に対する学生のレポート評価については、ルーブリックに基づき岐阜大学教員及びIITG教員が共同で行った。当プログラムは、本学の学生4名及びIITGの学生20名が受講した。

【特に優れた取組】

・ウィンタースクールでは、岐阜JDPシンポジウムへの参加、日本語授業、日本文化体験、企業見学(岐阜、名古屋、東京)、本学での研究体験、岐阜県食品科学研究所への訪問と食文化体験、地域理解(八百津研修)、高校を訪問し高校生との交流会を実施した。これらを通して、日本・岐阜地域の理解や、産業界への理解などを深めるとともに、今後のJDPを含めた大学院への進学、日本企業への就職につながる事が期待できる。2025年度も本取り組みを実施する予定である。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	7	5	8	10	10	15	12	19	14	51	51

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド				1						
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	1	5	3	4	4	15	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	1	5	3	4	4	15				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの
B	もとよりオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

インターンシップとして5名派遣した。そのうちジョイント・ディグリープログラムの国際連携食品科学技術専攻・修士課程に在籍する岐阜大学の学生3名が、インドの食品加工製造企業および生物農薬・植物肥料製造会社にてインターンシップを行った。

食品加工製造企業では、インスタント麺を中心とする製品製造の現場の理解とインドでの食品衛生システムについて理解を、生物農薬・植物肥料製造会社では、持続可能な農業に向けた生物農薬の事業展開について理解を深めた。

【特に優れた取組】

- ・産業界や政府関連機関（文部科学省、JETRO、JICA等）がJDPシンポジウムに参加することで、それに参加する学生が自身のJDP修了後に国際的な環境で活躍するイメージ作りに貢献できた。
- ・研究型のインターンシップ期間中に、派遣学生が在籍するJDPの必修科目「国際連携グローバルインターンシップおよびセミナー」の履修の一環でインド企業へのインターンシップを行い、所定の単位を取得した。これにより、IITG側の産業型インターンシップの開発が進んだ。
- ・研究型のインターンシップ期間中に、派遣学生がインド企業訪問や、インド国内学会に参加する等、IITGに滞在時におけるの産業型インターンシップの開発が進んだ。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

インターンシップとして15名受け入れた。そのうちジョイント・ディグリープログラム（JDP）の国際連携食品科学技術専攻・修士課程に在籍するインド学生5名が製紙製造企業および食品関連企業にてインターンシップを行った。記録紙等の製造企業では、製品製造の現場を見学したのち、インド学生の目線から見た新しい技術展開やインド現地ニーズ探索をテーマに企業人と意見交換を行った。食品関連企業では、食品加工技術が製品製造に活用されている事例の理解を深めた。加えて同企業に勤務するJDP修了生（JDP日本人第一期修了生）のJDPでの体験やキャリア形成などの意見交換を行った。

なお、インターンシップに先立ち、日本の産業に関する事前研修を受講し、終了後には成果をまとめた発表会を実施した。

【特に優れた取組】

- ・研究型のインターンシップ期間中に、受入学生が在籍するJDPの必修科目「国際連携グローバルインターンシップおよびセミナー」の履修の一環で日本企業へのインターンシップを行い、所定の単位を取得した。これにより、本学側の産業型インターンシップの開発が進んだ。
- ・産業インターンシップで訪問した企業の中には、採用に向けた学生とのコミュニケーションを開始する企業が現れた。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
インド工科大学グワハ ティ校	認定者数	B(大学院生)	1	3	5	5	6
	認定単位数	B(大学院生)	13	13	13	13	13
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	3	5	5	6
年度別認定単位数合計			13	13	13	13	13

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
インド工科大学グワハ ティ校	認定者数	B(大学院生)	1	4	4		
	認定単位数	B(大学院生)	13	41	52		
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	4	4	0	0
年度別認定単位数合計			13	41	52	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○名古屋大学・岐阜大学			
主な交流先	オーストラリア			
事業名	【和文】	ポストSDGs時代の経済安全保障に貢献できる自律協働型国際プロフェッショナル人材育成		
	【英文】	Developing professionals who can work autonomously and collaboratively to contribute to economic security in a post-SDGs world		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	中園 幹生	(所属・職名) 生命農学研究科・研究科長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用				

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について

① プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

● 申請時の計画調査記載人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	149	280	163	282	163	282	160	283	159	282	794	1409
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	6	9	13	10	13	10	10	11	9	10	51	50
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	135	265	138	265	138	265	138	265	138	265	687	1325
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	8	6	12	7	12	7	12	7	12	7	56	34

● 海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

● 合計人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	149	280	163	282	163	282	160	283	159	282	794	1409
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	6	9	13	10	13	10	10	11	9	10	51	50
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	135	265	138	265	138	265	138	265	138	265	687	1325
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	8	6	12	7	12	7	12	7	12	7	56	34

② プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(Ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	274	608	319	623	225	317	0	0	0	0
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	1	0	30	3	35	12				
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 243	B 604	B 261	B 616	B 157	B 301	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	30	4	28	4	33	4				
達成目標に対する実績の割合	184%	217%	196%	221%	138%	112%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	2	5	6	5	6	5	4	5	4	5
	オンライン	0	4	4	4	4	4	2	4	2	4
	ハイブリッド	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	3	4	5	4	5	3	6	2	5
	オンライン	0	3	3	4	3	4	2	5	1	4
	ハイブリッド	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	139	267	145	267	145	267	145	267	145	267
	オンライン	4	2	4	2	4	2	4	2	4	2
	ハイブリッド	135	265	138	265	138	265	138	265	138	265
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	21	0	26	0	156	300	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 126	A 0 B 300	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	21	0	22	0	30	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	3	8	9	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	252	608	290	620	60	10	0	0	0	0
	オンライン	A 1 B 243	A 0 B 604	A 0 B 261	A 0 B 616	A 0 B 31	A 0 B 1	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	8	4	3	4	3	6				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
	ハイブリッド	1	0	3	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

短期派遣プログラムとして、アデレード大学、モナシュ大学、クイーンズランド大学へ学生を派遣することができた。部局ごとに専門教育を深める内容のプログラムの実施のほか、食糧安全保障に関するスタディツアーについては、全学および岐阜大学より学生を募集し、他部局からの学生を一つの@うらぐらに派遣することが実現した。また、アジア連携校（フィリピン大学ロスバニョス校）へ学生を派遣し、専門教育を受けるとともに各大学の学生と学生交流や実習を実施した。

国際オンライン講義によるオンライン派遣では、名古屋大学学生がオーストラリアの学生とともに、専門教育を受け、実習を行った。2024年度より、本講義は単位化されたため、16コマ1単位の科目となり、1名の学生が16コマを受講する必要があるため、前年度に比べ全体の交流学生数としては、減少している。

【特に優れた取組】

前年度に比べ、実渡航が顕著に増え、長期にわたる交換留学生が増えたことは、今後の学生交流の発展に期待ができる。また、オンライン講義が単位化され、必修科目として位置付けられたことは本プログラムでの学生教育の効果が評価されたと言える。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

前年度に引き続き、食糧安全保障に関するスタディツアーを名古屋大学・岐阜大学にて実施した。多数の参加希望者があったが、学生の選抜を実施し、スタディツアーを実施した。西オーストラリア大学学生4名のほか、西オーストラリア大学にて実施されたスタディツアーに参加した名古屋大学学生と岐阜大学学生も国内のスタディツアーに参加し、オーストラリアと日本国内の小麦生産等の状況を比較する等の学びを広げた。

【特に優れた取組】

前年度に比べ、数字が減少しているとはいえ、単位化された講義のオンライン受入の学生交流数は高く評価するに値すると言える。また、派遣同様に長期にわたる実渡航の学生交流数が増えており、今後の更なる発展が期待できる。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調査記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	5	8	5	8	5	8	5	8	5	40	25
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	10	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	30	25

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	8	5	8	5	8	5	8	5	8	5	40	25
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0	10	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5	30	25

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	7	4	9	4	10	4	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0				
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	7	4	9	4	10	4				
達成目標に対する実績の割合	88%	80%	113%	80%	125%	80%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	6	5	6	5	6	5	6	5	6	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	0	2	0	2	0	2	0	2	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	3	0	9	0	7	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	3	0	9	0	7	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	4	4	0	4	3	4	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	4	4	0	4	3	4				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

前年度に引き続き、西オーストラリア大学にて実施された食料安全保障に関するスタディツアーにおいて、企業でのインターンシップにも参加した。小麦生産から、輸出入、製粉化にかかる企業を訪問し、日本で自分たちが目にする小麦が、畑で生産され自分たちの手元に届くまでの実際の工程を実際の現場から学ぶことができた。

【特に優れた取組】

西オーストラリアの小麦育種、生産、輸出関連企業におけるインターンシップを通じて、食の安全およびフードバリューチェーンについて学生が効果的に学んでいることが評価され、今後、受入時に訪問する日本企業の職員もスタディツアーに同行し、より深い学びに繋がる内容になるよう現在協議中である。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

前年度に引き続き、名古屋大学・岐阜大学にて実施した食料安全保障に関するスタディツアーにおいて、小麦の新種改良から小麦生産、輸出入、製粉化まで行う企業でのインターンシップを実施した。西オーストラリア大学でのスタディツアーに参加した学生と受入の学生がともに、講義を受け、実習をし、企業の現場を訪問することにより、学びの幅が広がり様々な観点から経済安全保障リスクを検討できるようになった。

【特に優れた取組】

前年度に引き続き日本の製粉会社からの協力を得ることができ、インターンシップを実施することができた。大学の講義や実習だけでは得られない学びに繋がり、普段の研究からも離れた内容を現場で学ぶことから多角的な視点を持つ学生への成長に繋がった。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	3	5	5	4	4
	認定単位数	A(学部生)	2	2	2	2	2
西オーストラリア大学	認定者数	B(大学院生)	2	3	3	3	3
	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
アデレード大学	認定者数	A(学部生)	1	3	3	2	2
	認定単位数	A(学部生)	1	1	1	1	1
アデレード大学	認定者数	B(大学院生)	1	2	2	2	1
	認定単位数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
クイーンズランド大学	認定者数	B(大学院生)	0	2	2	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数	052-788-6263					
年度別認定者数合計			7	15	15	12	11
年度別認定単位数合計			6	7	7	7	7

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	0	1	0	1	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：名古屋大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	18	14	17		
	認定単位数	A(学部生)	2	2	2		
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生または大学院生)	2	0	0		
	認定単位数	A(学部生または大学院生)	1	0	0		
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	0	1	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	1	0		
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			20	15	17	0	0
年度別認定単位数合計			3	3	2	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	1	1	1	1
年度別認定単位数合計			1	1	1	1	1

2. 国内連携大学 【大学名：岐阜大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
西オーストラリア大学	認定者数	B(大学院生)	1	0	0		
	認定単位数	B(大学院生)	1	0	0		
西オーストラリア大学	認定者数	A(学部生)	0	2	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	1	0		
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			1	2	0	0	0
年度別認定単位数合計			1	1	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	神戸大学		
主な交流先	オーストラリア		
事業名	【和文】	世界的課題解決に向けた工学系グローバル人材育成のための国際共修/協働学修プログラム	
	【英文】	International Educational Program for Developing Global Human Resources in Engineering for Solving Global Issues	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	玉置 久	(所属・職名) 理事・副学長
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<http://www.eng.kobe-u.ac.jp/sekaitenkai/>

2. 交流学生数の実績等 【(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20	0	80
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0	85	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20	0	80
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	0	0	16	44	15	14						
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	30	0	0	0	0	6						
達成目標に対する実績の割合	200%	0%	80%	220%	75%	100%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	15	20	20	20	20	20	22	20	23	20
	オンライン	0	0	20	0	20	0	22	0	23	0
	ハイブリッド	15	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	20	0	20	0	20	0	20
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	30	0	16	0	15	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	16	0	15	0				
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	22	0	20	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	22	0	14				
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	6				
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本プログラムは、地球規模の課題解決に資する多面的な視野とリーダーシップを有する次世代の工学系グローバル人材の育成を目的としている。具体的には、日本国内での受入時に神戸大学生と海外学生による協働学修を展開するとともに、海外派遣時には現地大学の学生とともに課題解決型の学修を行い、専門性と異文化理解を統合的に育成することを目指している。

2024年度は、ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT) を主拠点とする10日間の海外派遣プログラムを実施し、工学系研究室の訪問や企業・研究機関における現場体験を通じて、実践的な学修機会を提供した。なお、本プログラムの主軸となる交流は2年次に実施するが、対象学生は1年次に選抜され、事前に「工学英語入門」等を受講することで、国際交流に向けた基礎的な準備を整えている。2024年度も16名を選抜し、次年度の派遣に向けた学修体制を着実に構築している。

【特に優れた取組】

本プログラムの特に優れた点は、受入型のサマースクールと派遣型の現地研修が約半年の間隔で継続的に実施されている点にある。この構成により、参加学生は一過性の国際交流にとどまらず、両プログラムの間にあたる期間中も相互に連絡を取り合い、個人的にもSNS等を通じた交流を継続している。こうした継続的なつながりを通じて、参加者同士の関係性が時間をかけて深化し、長期的かつ実質的な国際共修の実現へとつながっている。

派遣プログラムでは、産業界と学術機関の双方を横断的に訪問し、理論と実践を統合した高度な学修を提供している。単なる語学研修にとどまらず、CSL (連邦血清研究所)、CSIRO (連邦科学産業研究機構)、Nissan Casting Plant、Australian Synchrotronなど、世界的にも高い水準を誇る研究機関・製造施設を実際に訪問し、最先端技術や国際的な研究開発の現場に直接触れる機会を通じて、参加学生の国際的視野が大きく広がっている。

また、ロイヤルメルボルン工科大学 (RMIT) との連携のもと、化学、化学工学、デジタル製造、テキスタイル、食品科学、デザインなど、複数の分野にまたがる最先端ラボを訪問する機会を設けており、学際的な知識と関心を育む構成となっている。さらに、RMIT 工学部による Humanitarian Engineering の PBL (課題解決型学習) 授業に参加することで、実社会の課題をテーマとした主体的な探究と、チームによる問題解決力の育成を同時に図っている。加えて、Yarra Park 地下浄水施設や Melbourne Cricket Ground といったインフラ施設や文化施設の見学も組み込まれており、技術・研究にとどまらず、環境・社会・文化に関する包括的な理解を促進する学びの場として機能している。

本プログラムでは、学術的専門性と実践的かつ継続的な教育プラットフォームとして高い教育効果を有している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年7月1日から12日にかけて、ロイヤルメルボルン工科大学 (オーストラリア) から17名、マヒドン大学 (タイ) から3名、合計20名の学生を受け入れ、サマースクールを開催した。応募者は100名を超え、厳正な選考を経た参加者により、質の高い国際交流が実現された。

本プログラムには、神戸大学工学部グローバルチャレンジプログラム (GCP) の学生も参加しており、派遣プログラムを通じて交流を深めた海外学生との再会、新たな人的交流が生まれる機会となった。GCP では、現在2年次生が翌年3月のRMIT 派遣に向けた準備を進めており、今回の受入プログラムではその事前交流・関係構築および異文化理解促進の重要な機会となっている。

また、2025年に阪神・淡路大震災から30年を迎える節目にあたり、「防災・減災」をテーマとした「Kobe University Engineering Summer School 2024」を開催した。表題を「Feel the Sea Breeze and Disaster Resilient Technologies in Kobe」とし、神戸大学の研究成果および地域連携の取り組みを紹介するプログラムを展開した。各学科による講義やラボツアーに加え、防災関連施設・インフラ整備現場の視察、災害時における言語的障壁を乗り越えるためのワークショップなど、実践的かつ多面的な学修の場を提供した。

【特に優れた取組】

本プログラムは、専門知識の習得に加え、言語、文化、キャリア意識を統合的に育成する多層的な学修の機会を提供している。機械、建築、電気電子といった工学部各分野における専門的講義・ラボ見学に加え、防災・減災という社会的課題を主軸とした体験型学修を通じて、技術と社会の関係性を体感的に理解する構成となっている。

また、「サバイバルジャパニーズ」や関西方言に触れる文化プログラムを通じて、地域文化への理解を深めるとともに、日本人学生との協働を通じて、異なる国・専門領域の学生同士による異文化共修が実現されている。災害時に役立つツールの共同構想などにおいては、言語・価値観の違いを超えた協働が行われ、日本の災害対応の知見と国際的視点を融合させる学びが展開された。

2024年度は、参加者に対してオンライン学習プラットフォーム「JVCampus」を活用した応用化学系の学習コンテンツを作成し、オンラインによる自主学習を推奨した。さらに、本プログラムのために独自に開発した日本語学習ツールも同プラットフォーム上で公開し、2025年度以降の参加者による事前学習に活用する予定である。これにより、言語的な準備を強化し、より深い学びと交流の促進を図る。

これらの活動は、参加学生の主体的な学修意欲を喚起し、将来的な国際的キャリア形成にも大きな意義を持つものであり、本プログラムは国際的エンジニア育成のモデルとして極めて有効に機能している。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数 (計画)

●申請時の計画調査記載人数

各年度の派遣及び受入人数 (交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	20	10	20	10	22	10	23	10	85	40
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数 (交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数 (交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	20	10	20	10	22	10	23	10	85	40
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	10	0	10	0	10	0	10	0	40

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	30		16		15		0		0	
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0		0		0		0		0	
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0		0		0		0		0	
	オンライン	A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0		0		0		0		0	
	オンライン	A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0		0		22		0		20	
	オンライン	A		A		A	0	A	0	A	
		B		B		B	0	B	0	B	
	ハイブリッド					0		0			
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0		0		0		0		0	
	オンライン	A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0		0		0		0		0	
	オンライン	A		A		A		A		A	
		B		B		B		B		B	
	ハイブリッド										

A	コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと
B	もともオンライン実施で準備していたものと

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度も継続して年に1回の派遣を行った。CSL（連邦血清研究所）、CSIRO（連邦科学産業研究機構）、Nissan Casting Plant、Australian Synchrotronなど、世界的にも高い水準を誇る研究機関・製造施設にてインターンシップを実施した。最先端技術や国際的な研究開発の現場に直接触れる機会となっている。Yarra Park地下浄水施設やMelbourne Cricket Groundといったインフラ施設や文化施設でも、技術・研究にとどまらず、環境・社会・文化に関する包括的な理解を促進する学びの場として機能している。

【特に優れた取組】

本プログラムでは、CSL（連邦血清研究所）、CSIRO（連邦科学産業研究機構）、Nissan Casting Plant、Australian Synchrotronといった、世界的に高水準な研究機関・製造施設におけるインターンシップを通じて、学生が最先端技術や国際的な研究開発の現場に直接触れる機会を提供している。また、Yarra Park地下浄水施設やMelbourne Cricket Groundといったインフラ・文化施設の見学により、技術のみならず、環境・社会・文化に関する多面的な理解を促進している。

本プログラムは、高度専門職業人としての資質に加え、グローバルな課題解決に貢献できる柔軟かつ広範な教養を兼ね備えた人材の育成を実現しており、グローバルエンジニア育成の牽引モデルとして優れている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度も継続して年に1回の受入を行った。本プログラムにおいては、「防災・減災」をテーマとし以下の3件の現場見学・インターンシップを実施した。

①阪神高速豊崎区換気所新築及び開削トンネル・下部工事

阪神高速道路株式会社が定める豊崎区における換気所の新築工事および開削トンネル・下部工事の現場を訪問した。参加学生は、都市型高速道路インフラの構造・施工技術に関する実地的な知識を学ぶとともに、大規模土木工事における安全管理、環境配慮、交通影響軽減の取り組みなどを見学し、社会インフラ整備の最前線を体感した。

②株式会社ノーリツ

住宅設備機器メーカーである株式会社ノーリツにて研究開発施設を見学した。製品設計から生産・品質管理までのプロセスを通じて、日本のものづくりの現場における技術革新、省エネルギー化、ユーザー視点の製品開発などを学ぶ貴重な機会となった。

③人と防災未来センター

阪神・淡路大震災の記憶と教訓を伝えるための施設である「人と防災未来センター」を訪問し、震災体験映像や復興記録展示を通じて災害の実態と防災の重要性について理解を深めた。また、防災教育の最新手法や地域社会との連携の取り組みについての講義を受け、防災・減災に関する視野を広げることができた。

【特に優れた取組】

本プログラムの特に優れている点は、「防災・減災」という社会的に重要なテーマのもと、異なる領域における現場見学と体験学習を組み合わせることで、工学的知識の実社会への応用力と、災害対応に必要な多角的視点を養う機会を提供している点にある。

阪神高速豊崎区現場では、都市部におけるインフラ整備の最前線を見学することで、大規模土木工事における安全・環境・社会への配慮の在り方について、理論に基づいた実践的理解を深めることができた。ノーリツにおいては、製品開発から生産管理に至るまでの工程を通じて、技術革新とユーザー志向の製造思想を学ぶとともに、災害時の生活インフラを支える技術の重要性について認識を高める機会となった。さらに、人と防災未来センターでは、震災の記憶に基づいた展示と防災教育の手法を学び、災害に対する備えや意識啓発の社会的役割について深い洞察を得ることができた。

これら三者三様の学びは、防災を単なる技術課題にとどめることなく、工学、製造、教育、地域連携といった多層的な観点から捉える力を育成しており、実践的かつ社会的意義の高い学修機会を提供する優れた取り組みである。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

相手大学名	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	単位互換を実施する 海外相手大学数	1	2	2	3	2	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロイヤルメルボルン工科大学	認定者数	A(学部生) 15	15	15	15	15
	認定単位数	A(学部生) 2	5	5	5	5
ジョージア工科大学	認定者数	A(学部生) 0	0	0	2	3
	認定単位数	A(学部生) 0	0	0	5	5
マヒドン大学	認定者数	A(学部生) 0	5	5	5	5
	認定単位数	A(学部生) 0	5	5	5	5
年度別認定者数合計		15	20	20	22	23
年度別認定単位数合計		2	10	10	15	15

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

相手大学名	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	0	0	0	0			

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：神戸大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロイヤルメルボルン工科大学	認定者数	A(学部生) 0	0	0		
	認定単位数	A(学部生) 0	0	0		
ジョージア工科大学	認定者数	A(学部生) 0	0	0		
	認定単位数	A(学部生) 0	0	0		
マヒドン大学	認定者数	A(学部生) 0	0	0		
	認定単位数	A(学部生) 0	0	0		
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
	認定者数					
	認定単位数					
年度別認定者数合計		0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計		0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京都市大学			
主な交流先	オーストラリア			
事業名	【和文】	アジア大洋州国際キャンパスにおけるカーボンニュートラル社会の実現に貢献できる人材養成プログラム		
	【英文】	Human Resource Development Program Contributing to the Realization of a Carbon Neutral Society at Asia Pacific International Campus		
事業責任者 <small>※交替年月日は変更があった場合のみ記入</small>	(氏名)	田口 亮	(所属・職名)	副学長（情報工学部情報科学科・教授）
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 <small>※追加調査を提出した大学のみ記入</small>	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.iuep.tcu.ac.jp/>

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	7	2	7	2	5	0	0	20	5	0	24	24
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0	20	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	15	0	0	5	0	5	5	5	5	15	25
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	7	2	7	2	5	0	0	20	5	0	24	24
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0	20	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	15	0	0	5	0	5	5	5	5	15	25
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	6	29	6	37	5	43	0	0	0	0		
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
達成目標に対する実績の割合	27%	171%	86%	185%	50%	#DIV/0!	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	5	0	5	5	5	5
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	20	15	5	0	5	0	5	20	5	0
	オンライン	5	0	5	0	5	0	0	20	5	0
	ハイブリッド	15	0	0	0	0	0	5	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	オンライン	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	29	4	32	4	43	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	6	0	2	5	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	14	0	11	0	20	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣でのインターンシップは実施できていない。

【特に優れた取組】

派遣でのインターンシップは実施できていない。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

JDプログラムとしての正式な受入は2025年度よりスタートする。

【特に優れた取組】

ニューコロナプランを利用したグローバル・リーダーシップ・プログラムを実施し、多くのECU学生が日本でインターンシップを実施している。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	B(大学院生)	0	0	5
ECU (JD)	認定単位数		0	0	10	10	10
	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
ECU (交換留学)	認定単位数		4	4	4	4	4
	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
UTM	認定単位数		4	4	4	4	4
	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
タマサート大学 (SIIT)	認定単位数		4	4	4	4	4
	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
デラサール大学 (DLSU)	認定単位数		4	4	4	4	4
	認定者数	B(大学院生)	1	1	1	1	1
年度別認定者数合計			4	4	9	9	9
年度別認定単位数合計			16	16	26	26	26

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	0	0	1	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京都市大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	B(大学院生)	0	0	1
ECU (JD)	認定単位数	B(大学院生)	0	0	7.5		
	認定者数		0	0	0		
ECU (交換留学)	認定単位数		0	0	0		
	認定者数		0	0	0		
UTM	認定単位数		0	0	0		
	認定者数		0	0	0		
タマサート大学 (SIIT)	認定単位数		0	0	0		
	認定者数		0	0	0		
デラサール大学 (DLSU)	認定単位数		0	0	0		
	認定者数		0	0	0		
年度別認定者数合計			0	0	1	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	7.5	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	長岡技術科学大学			
主な交流先	英国・インド			
事業名	【和文】	マルチディメンジョン・キャンパスでのデュアルインターンシップを活用した国際協働学習プログラム		
	【英文】	International Cooperative Educational Program Using Dual Internship on Multidimensional Campus		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	宮下 幸雄	(所属・職名) 副学長 (国際戦略担当)	
	(交替年月日)	2025年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.nagaokaut.ac.jp/outreach/project/indo-pacific/index.html>

2.交流学生数の実績等 [(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ]

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	1	15	11	26	20	39	32	39	32	121	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	10	6	19	13	28	21	28	21	85	61
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	5	5	7	7	11	11	11	11	34	34
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	1	15	11	26	20	39	32	39	32	121	96
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	10	6	19	13	28	21	28	21	85	61
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	5	5	7	7	11	11	11	11	34	34
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	21	2	23	13	33	20	0	0	0	0		
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	5	1	9	3	11	7						
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A		
	B 16	B 1	B 14	B 10	B 22	B 13	B	B	B	B		
達成目標に対する実績の割合	1050%	200%	153%	118%	127%	100%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	オンライン	0	0	0	0	7	7	11	13	11	13
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	9	5	13	6	21	10	21	10
	オンライン	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0
	ハイブリッド	0	0	5	0	6	0	6	0	6	0
		0	0	0	5	1	6	5	10	5	10
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	1	6	6	6	6	6	6	6	6
	オンライン	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	6	6	6	6	6	6	6	6
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	1	1	3	1	3
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2
		0	0	0	0	0	1	0	1	0	1

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	18	2	18	11	26	17	0	0	0	0
	オンライン	A 2	A 1	A 4	A 1	A 4	A 4	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 16	B 1	B 14	B 10	B 22	B 13	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0				

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度は、33名の派遣を実施した。実渡航による派遣は11名（ヨーク大2、IITマドラス9）であり、うち7名については、単位取得を伴う派遣であった（実務訓練、リサーチインターンシップ）。インド、英国以外にも大学全体として海外留学プログラムを実施しているため、民間の安全サポート会社を活用し、学生の安全を十分に確保したうえで派遣を実施している。日本とは異なる環境において現地の教員等から研究指導を受け、異なる考え方に触れることで異文化理解を深め、グローバルマインドを涵養することができた。

また、DX manufacturing workshops等のオンラインを利用した交流プログラムでは、合計26名の学生や教員の参加者を集めて実施した。学生主体によるメタバースを活用した学生交流、研究室交流も数回実施した。このように本事業によって構築した、場所や時間に捉われずに交流が可能な環境を活用し、引き続き、学生交流を充実させる。

連携大学とは異なる地域であるものの、最初のステップとなる語学留学を学部2・3年次に経験し、学部4年次には海外実務訓練、さらに大学院ではリサーチインターンシップで連携大学に複数回にわたって留学をする学生が増えており、2025年度以降についても海外派遣学生の継続的な増加が期待される。

【特に優れた取組】

メタバース技術をベースとした遠隔会議システムを構築し、これを学生が主体的に活用できるようにしたことにより、オンラインでの学生交流や研究室交流の機会を増やすことができた。

実渡航を伴う派遣に関しては、学部生の実務訓練は3名減であったが、大学院生は5名増となった。大学院生の派遣に伴いIITマドラスの新たな研究室との交流が始まり、2025年度以降の学生交流に繋がる目途が立っている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度は、20名の受入を実施した。メタバース技術をベースとした遠隔会議システムを構築したことにより、オンラインでの学生交流機会を増やすことができた。

DX manufacturing workshops等のオンラインを利用した交流プログラムでは17名の参加者を集めて実施した。また、実渡航を伴う学生のうち、1名はインド及び本学で日本語学習を含む事前研修を行った後に日本国内の企業においてインターンシップを経験し、2名は博士課程の学生で本学教員による研究指導を行った。日本国内の企業でのインターンシップについては、受入先の調整・開拓を継続しており、次年度以降はより多くの学生を受け入れることを目指している。

DX manufacturingに関係するオンラインコンテンツを本学とIITマドラスの教員が協力して作成した。2025年度にJV-Campusでの公開を予定しており、オンラインでの学習・交流の更なる促進が期待される。

【特に優れた取組】

学生が主体となってオンラインと対面のハイブリッド形式で開催したDX manufacturing workshopsでは、連携大学であるインドの他に、ベトナムからの参加者も集めて実施することができた。今後、本事業の拡大展開が期待できるものとなった。

ジョイント・ディグリープログラムの構築に向けて、短期間ではあるが博士課程の学生を受入れて、本学研究室において博士課程の共同指導を実施した。2024年度にIITマドラスへ大学院生を派遣したことで新たな研究室と交流が始まり、2025年度以降はそれらの研究室から実渡航の受入学生の増加が期待できる。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	9	5	13	6	21	10	21	10	66	32
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0	30	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	6	11	10	11	10	34	31

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	2	1	9	5	13	6	21	10	21	10	66	32
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	4	0	6	0	10	0	10	0	30	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	5	5	7	6	11	10	11	10	34	31

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	2	3	3	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	1	4	1	4	4	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本事業では、学部生の「海外実務訓練」、大学院生の「リサーチインターンシップ」がインターンシップとして設定されており、いずれも実渡航を伴う交流プログラムである。いずれも単位取得を伴う派遣であり、2024年度は学部生1名（IITマドラス）、大学院生6名（IITマドラス）の派遣を行った。民間の安全サポート会社等を活用し、また、派遣前には書面と面談により複数の教員で派遣学生に関する条件や英語力・コミュニケーション能力等の確認を行い、十分な危機管理対策を実施している。また、IITマドラス内の本学海外拠点オフィスに常駐しているコーディネーターが、派遣前に面談を実施して渡航準備のサポートを行い、派遣後も生活面や危機管理の支援を行っている。海外実務訓練、大学院リサーチインターンシップとも、日本とは異なる環境において、現地教員からの指導や現地学生とコミュニケーションを取ってプログラムに取り組んでいる。日本とは違った手法や考え方に触れることで異文化に対する理解を深め、グローバルマインドを涵養することができた。このように十分な体制や充実した内容のプログラムであるため、学生の留学意欲の向上に繋がっており、学部時の海外実務訓練および大学院時のリサーチインターンシップの両方で連携大学へ留学し、デュアルインターンシップを経験した学生も1名いる。他に、単位取得を伴わない短期留学として4名（ヨーク大2、IITマドラス2）の派遣も実施した。なお、海外派遣した学生が帰国後に自身の留学体験を後輩の学生へ話す報告会を複数回実施しており、持続的な学生交流となるよう進めている。

IITマドラスに係る実務訓練については、キャンパス内のリサーチパークにある先端ものづくり研究所（AMTDC）のほか、日系企業へも派遣できる見通しが立ち、2025年度から派遣を開始することで企業側と合意を得ている。

ヨーク大学と本学の関係する教職員によって単位互換に関する協議を進めたため、来年度以降の学生派遣の活性化が期待される。

【特に優れた取組】

学部生の海外実務訓練は、約5ヵ月間にわたる長期インターンシップであり、短期留学では得られない経験を積むことでグローバル感覚を養うことができた。この経験は大学院で再度留学する意欲の向上へとつながる。大学院生のリサーチインターンシップによる派遣が前年比5名増となり、新たな研究室間交流の構築に繋がった。2025年度以降はこれをきっかけに学生交流数の増加を目指す。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

本事業では、日本国内企業での受入、本学の研究室での受入をインターンシップとして設定しており、いずれも実渡航を伴う交流プログラムである。

2024年度は、日本国内企業でのプログラムで1名、本学の研究室での指導で2名、短期留学で4名の学生を受入れた。日本国内企業でのインターンシップ派遣学生には、インド及び本学において日本語学習を含む事前研修を行った後に企業へ派遣した。インターンシップでは、研究分野であるコールドスプレー技術を用いた金属薄膜の製造に従事し、金属粉末の最適な付着条件やその機械的性質に関する論文執筆にも取り組み、国際共同研究の推進にも資することができた。

日本へ留学する学生の手続きに関しては、IITマドラス内に設置している本学のオフィス及びコーディネーターによる支援が有効であった。また本事業では、本学の日本語教員とIITマドラスの日本語教員が連携・協力し、派遣前と派遣後の日本語教育プログラムを構築、実施する体制とした。

本事業に関係する教職員により、ヨーク大学教員と本学受入教員同士や研究内容のマッチングを図るとともに、ヨーク大学側と協議して受け入れに関わる手続きも考慮したプログラムを構築することができたため、2025年度以降の学生受入の活性化が期待される。

【特に優れた取組】

日本国内企業でのインターンシップは、学生にとっては日本企業文化等を学ぶ経験となり、企業側にとっても外国人を迎え入れる体制づくりを経験することができるため、双方にとって貴重な経験となっている。また、企業から宿舍の支援を受けることができたため、留学生も連携大学も費用面で安心して派遣することができた。2025年度から開始するインドにある日系企業への日本人学生の海外実務訓練派遣に関しても受け入れ先企業から宿舍や食事等の支援を受けることとなり、持続性のある産学連携での技術者教育プログラムを構築している。なお、インドの受け入れ先企業で学生の受け入れ準備を行っている社員は、過去に実施した大学の世界展開力強化事業でインドでの海外実務訓練および研究留学を経験した本学の修了生であり、本学の取り組みは長期的な時間スパンでの持続性、発展性にもつながっている。

上述のように、本事業によって、教育、研究、産学連携、語学等を組み込み構築した実施体制を他大学へ横展開することで、留学生の受け入れ、さらには日本での就職・定着の促進に繋がる。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	B(大学院生)	0	0	0
ヨーク大学	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0	4	4
	認定者数	B(大学院生)	0	0	1	1	1
インド工科大学マドラス校	認定単位数	B(大学院生)	0	0	4	6	6
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	1	2	2
年度別認定単位数合計			0	0	4	10	10

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	1	1	1	1	1				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	B(大学院生)	0	0	0
ヨーク大学	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
インド工科大学マドラス校	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	お茶の水女子大学			
主な交流先	英国・オーストラリア			
事業名	【和文】	グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム		
	【英文】	Practice-Based EDI Program for Global Leaders		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった 場合のみ記入	(氏名)	石井クンツ 昌子	(所属・職名) 理事・副学長 (国際交流・ダイバーシティ推進担当)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した 大学のみ記入	大学名			国名
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	ウェスタン オンタリオ大学	University of Western Ontario	カナダ
	2	ラ・リオハ大学	Universidad de La Rioja	スペイン
	3	インド工科大学ハイデラバード校	Indian Institute of Technology Hyderabad	インド
	4	PSGRクリシュナマル女子大学	PSGR Krishnammal College for Women	インド
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.cf.ocha.ac.jp/edi/index.html>

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)			2	2	3	3	4	4	5	5	14	14
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	50	50	100	150	100	150	150	200	150	200	550	750
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	4	16	24	36	30	40	38	48	46	140	142
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)							0	4	0	4	0	8
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)							3	2	3	1	6	3
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)							2	0	3	2	5	2
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	2	2	3	3	4	8	5	9	14	22
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	50	50	100	150	100	150	153	202	153	201	556	753
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	4	16	24	36	30	42	38	51	48	145	144
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	2	7	12	3	11	2						
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 54	A 0 B 57	A 0 B 49	A 0 B 33	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	5	8	8	0						
達成目標に対する実績の割合	4%	13%	60%	39%	49%	19%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

【交流形態別 内訳】	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	0	4	8	16	26	20	28	30	34	36
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	4	8	16	26	20	28	26	34	32
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	10	10	13	13	18	16	22	21
実渡航	0	0	2	2	3	3	4	4	5	5
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	8	8	10	10	14	12	17	16
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	50	50	100	150	100	150	153	202	153	201
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	50	50	100	150	100	150	153	202	153	201
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数		0	0	10	0	7	0	0	0	0	0
実渡航	A(学部生)			10		7					
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航											
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		2	0	7	11	12	2	0	0	0	0
実渡航	A(学部生)	2		2	3	4	2				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド	A(学部生)			5	8	8	0				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数		0	7	54	57	49	33	0	0	0	0
実渡航	A(学部生)			7							
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	54	57	49	33	B	B	B
ハイブリッド											
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航											
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航											
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											

A コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

本プログラムの本学における認知度は、学内での情報提供の結果、大きく向上しており、多くの本学学生が個別相談に来訪し、派遣生募集や短期研修に応募している。すでに海外連携大学に派遣され、帰国した学生の一部が卒業し、社会に輩出されており、即戦力として企業の海外進出の現場で活躍している学生もいる。また、大学院に進学し、国際的な研究活動に取り組み、将来のグローバルな学術的リーダーとして活動を続けている学生もいる。今年度の派遣生の中には、女性の社会進出を支援する事業を起業する予定の学生もおり、着実に高度人材の育成につながっていると考えている。

【特に優れた取組】

本プログラムでは、派遣学生が留学派遣の前に、派遣予定の海外連携大学から来日した受入留学生とともにサマープログラム、グローバルインターンシップ、秋学期履修、学生主催国際シンポジウムなどを通じて深く関わり合い、助け合い、互いへの理解を深め、共通の社会課題に関して学習し、議論しており、強い信頼関係を構築している点が挙げられる。帰国した受入留学生は母国で、本学からの派遣生とともに交流を継続しており、そのような学生同士の強い信頼関係は、あとに続く後輩の派遣や受入にも非常に良い相乗効果を生み出している。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度は、海外連携大学の教員の研究休暇の取得などにより、プログラムに関する情報提供の時期と応募時期が一致せず、受入留学生の増加には至らなかったが、2025年度の受入留学生の応募は着実に増加してきており（8名受入）、海外連携大学との連携関係は強化されている。定期的に、本学の石井理事・副学長や山腰国際担当評議員、本プログラムの平野特任講師が、米国やインド、英国、豪州の海外連携大学を訪問し、本プログラムの情報提供、説明会実施、学生交流等を実施しており、その結果が受入留学生の増加につながっている。

【特に優れた取組】

本プログラムにおける留学生の受入においては、本プログラム科目のシラバスを日英併記とし、情報提供を全て日英併記として対応している。また、英語によるコミュニケーション能力の高いアソシエイトフェローやアカデミックアシスタントを採用し、常時、英語による学生対応を行っている。また、サマープログラムの学生パティヤ、グローバルインターンシップのペア活動、秋学期期間中のチューター設置等によって、本学学生が受入留学生をサポートし、交流を促進できるよう配慮することで、受入留学生の孤立を防ぎ、些細なことも相談しやすい体制を構築している。学生とともに、それぞれの社会課題について授業や発表活動を通して意見交換して議論しており、互いから学び合いながら切磋琢磨して高めあう学習環境が提供されている。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	8	8	10	10	12	12	14	14	44	44
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）			8	8	10	10	12	12	14	14	44	44

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	2	0	3	2	5	2
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）							2	0	3	2	5	2

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	8	8	10	10	14	12	17	16	49	46
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	8	8	10	10	14	12	17	16	49	46

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	9	8	9	7	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	A(学部生)		9	8	9					
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	2	2	3	1	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド	A(学部生)		2	2	3					
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	A(学部生)		1							
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの
B	もともオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

○短期インターンシップにおいては、本学学生が受入留学生とともにペア（または少人数グループ）で2週間のインターンシップに参加しており、言語や文化の違いを越えて互いに協力して取り組んでいる。毎年8～10社の企業や学校、国際機関などでインターンシップを実施しており、実社会における公平性・多様性・包摂性の向上を目指して多くの取組が行われている。

○長期インターンシップにおいては、異文化理解と外国語によるコミュニケーション能力の育成をテーマとして、英語教育と教授法に関する3か月間のインターンシップを本学の附属小学校で実施しており、実際に小学校での英語教育に携わる経験は本プログラム参加学生にとって大変貴重な経験となっている。

【特に優れた取組】

2024年度から、本プログラム参加学生以外にも広く参加希望学生を募り、多くの本学学生や交換留学生にグローバルインターンシップ参加の機会を提供している。インターンシップ実施後は、全ての受入企業を招いてインターンシップ成果報告会を本学で実施している。その際に各企業の担当者からフィードバックを得ており、他社のインターンシップに関する学生発表等を確認することで、各企業におけるEDIの取組に関する理解を深め、自社におけるEDIの取組を改めて振り返って検証する機会となっている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

グローバルインターンシップでは、受入留学生が本学学生とペア（または少人数グループ）で実社会におけるEDIの課題について調査し、各企業における最終プレゼンテーションを実施している。受入留学生にとっては、本学に留学中に実際に就業体験を積むことのできる貴重な機会となっており、留学終了後に母国での就職活動につなげて、実際にマーケティング等の分野で就職している学生もいる。

【特に優れた取組】

受入留学生にとっては、日本における就職や日本企業の海外支店における就職を検討する貴重な機会となっており、実際に来日して英語教育等に携わろうと考えている留学生もいる。留学期間中にインターンシップを経験することで、就職先の分野・職種やキャリア形成について考える機会となっており、留学生にとってインターンシップ参加の意義は大きい。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	7	13
イーストアングリア大 学	認定単位数	A(学部生)	0	26	42	50	60
	認定者数	A(学部生)	0	3	14	15	18
シドニー工科大学	認定単位数	A(学部生)	0	18	48	50	60
	認定者数	A(学部生)	0	6	6	7	8
セントメアリーズ大学	認定単位数	A(学部生)	0	20	20	26	28
	認定者数	A(学部生)	0	2	6	7	9
ウェスタン オンタリオ 大学 (旧プレシア大学)	認定単位数	A(学部生)	0	12	20	26	34
	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	18	39	44	53
年度別認定単位数合計			0	76	130	152	182

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	3	3	2	2				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：お茶の水女子大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	1	4
イーストアングリア大 学	認定単位数	A(学部生)	0	40	200		
	認定者数	A(学部生)	0	1	0		
シドニー工科大学	認定単位数	A(学部生)	0	12	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
セントメアリーズ大学	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
ウェスタン オンタリオ 大学 (旧プレシア大学)	認定単位数	A(学部生)	0	4.5	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
年度別認定者数合計			0	4	4	0	0
年度別認定単位数合計			0	56.5	200	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数				
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東洋大学			
主な交流先	英国・オーストラリア			
事業名	【和文】	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム		
	【英文】	Program to develop the Japanese language ability and multicultural communication skills of international professionals through intensive business Japanese study.		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	荒巻 俊也	(所属・職名) 東洋大学 副学長	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1	リージェンツ大学ロンドン	Regent's University London	英国
	2	セントラル・ランカシャー大学	University of Central Lancashire	英国
	3	ブラパー大学	Burapha University	タイ
	4	ウズベキスタン国立世界言語大学	Uzbekistan State World Language University	ウズベキスタン
	5	フィレンツェ大学	The University of Florence	イタリア
	6	トリノ大学	The University of Turin	イタリア
	7	ポローニャ大学	University of Bologna	イタリア
	8	アムステルダム応用科学大学	Amsterdam University of Applied Sciences	オランダ
	9	ダグラス大学	Douglas College	カナダ
	10	トビリシ自由大学	Free University of Tbilisi	ジョージア
	11	泰日工業大学	Thai-Nichi Institute of Technology(TNI)	タイ
	12	文藻外語大学	Wenzao Ursuline University of Languages	台湾
	13	ニューヨーク州立大学ブロッポート校	The State University of New York College at Brockport	アメリカ
14	ベネツィア大学 (ヴェネツィア・カフォスカリ大学)	Ca' Foscari University of Venice	イタリア	
15	FPT大学	FPT University	ベトナム	

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.toyo.ac.jp/contents/international-exchange/toyo-iuep/>

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(目)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	155	203	323	315	324	315	325	315	336	325	1463	1473
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30	113	103
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	150	190	300	295	300	293	300	292	300	290	1350	1360
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)						2		3		5	0	10

●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(目)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	26	27	57	45	47	47	64	52	194	171
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)			26	27	57	45	47	47	64	52	194	171
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)											0	0

●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(目)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	155	203	349	342	381	360	372	362	400	377	1657	1644
実際に渡航する学生(以下「実渡航」)	5	13	49	47	81	65	72	67	100	82	307	274
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生(以下「オンライン」)	150	190	300	295	300	293	300	292	300	290	1350	1360
実渡航とオンライン受講を行う学生(以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5	0	10

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(目)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	148	167	367	286	225	284	0	0	0	0		
実際に渡航した学生(以下「実渡航」)	38	37	122	118	135	189						
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生(以下「オンライン」)	A		A		A	0	A	0	A		A	
	B	110	B	130	B	245	B	168	B	90	B	95
実渡航とオンライン受講を行った学生(以下「ハイブリッド」)					0	0						
達成目標に対する実績の割合	95%	82%	105%	84%	59%	79%	0%	0%	0%	0%		

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
【交流形態別 内訳】													
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	27	0	74	0	106	35	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	B	B	0	B	0	B	0	B	B		
	ハイブリッド					0	0						
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B		
	ハイブリッド					0	0						
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	実渡航	16	37	48	53	27	85	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	5	B	3	B	0	B	0	B	B		
	ハイブリッド					0	0						
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	105	130	242	233	90	135	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	105	B	130	B	242	B	168	B	90	B	66
	ハイブリッド					0	0						
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B		
	ハイブリッド					0	0						
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	実渡航	0	0	0	0	2	29	0	0	0	0		
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A		
		B	B	B	B	B	0	B	29	B	B		
	ハイブリッド						0						

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

前年度本プログラムを通して留学した学生が蓄積されてきて、派遣学生が行うPBL活動についての道筋ができ、活動がやりやすくなったため、学生の参加度合いが上がったように感じている。更に本プログラムの認知度をあげ、派遣者数を増やして行くよう、様々な方法で広報活動等を行っていく。2024年度は、渡航費や留学先での物価高騰のため、参加者が全体的に前年度を下回っている。

【特に優れた取組】

留学先での学修に加え、留学先大学での日本の社会や文化について、英語または現地語で照会し、日本語を学ぶ学生へのサポートを行う活動を、PBLとして取り組んだ学生に対して奨学金の支援を行った。学生は出発前に計画を立て、留学先では計画に沿った活動を行い、活動時間をカウントして報告することになっている。活動時間数に応じて単位を付与し、意欲向上につなげている。また、2025年2月10日、広島大学にて開催された「第3回採択校連絡会」に、2024年3月から11月までオーストラリア・カーティン大学に留学した学生が参加した。本連絡会は、令和4年度採択校14大学の教職員および学生（日本人学生・留学生）約50名が一堂に会し、各大学の事業成果の共有を目的として実施されたものである。本学学生は、カーティン大学での学術的な学びに加えて、自ら企画・運営した国際学生ミーティングについて英語で報告を行った。この国際学生ミーティングは、学生が主体となって日程調整やプログラム設計を行い、オンライン上で両大学から計17名の参加を得て実施されたものである。こうした取り組みは、学生の主体性と国際的なコミュニケーション能力の向上を示す好例として注目を集めた。報告会につづき、採択校の学生同士による交流会が開かれ、大学の枠を超えた意見交換やネットワーク形成の貴重な機会となった。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度は交流プログラムでの受入総数は228名となり、2023年度より減となっているが、1年間、実際に渡航した学生数は2023年度の118名だったところ、2024年度には189名と大幅に増えている。これは、協定校の間でも、本制度が定着してきたこと、また対象となる大学・国が増加したことに起因する。本学でも本制度が定着し、さらにより良いプログラムとするため、週1回のホームルームを設けて参加学生同士がお互いに刺激し合える環境を創出しており、また1年間のプログラム終了前には成果報告会を実施し、国内外に向けてオンライン、対面で発信している。年を追うごとに、縦、横のつながりができている。

【特に優れた取組】

JLPT（日本語能力試験）のN2以上またはN2相当以上の学生を2セメスター受け入れ、本学のビジネス日本語教育を通じて、高度な日本語運用能力を身につけ、日本理解を深めることができる人材を育成している。受入れた交換留学生に対して毎週お昼休みにホームルーム（HR）を教実施し、プログラムに関する情報提供や個別フォローアップを行うとともに、参加型の形式で学生同士が学修状況や気付きを公表し合える場を設けた。

学内ではLanguage Exchange Partner（LEP）制度を設け、本学学生が交換留学生とBuddyを組み、交換留学生の学習や学生生活を支援した。また、本学学生には留学生と交流する機会を与えたことにより、海外への興味を持たせるという副次的効果もあった。英語でのコミュニケーションを促進するスペースEnglish Community Zone（ECZ）では、留学生と本学学生が英語で交流する場を提供した。

さらに協定校を対象に短期受入プログラムを実施した。2024年度は、8つのプログラムを実施し、本プログラムを通じて、協定校からの受入学生と本学学生との実践的な学びと多様な交流の場を大学内に持った。本学の国際教育・交流を活発化させることで、参加学生と本学学生が大学の国際化を推進し、SDGsや多様な文化や価値観についての相互理解力やグローバル社会の中で生き抜くための素養を身に付けた学生を社会に輩出した。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（目）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	13	23	25	24	25	25	25	36	35	113	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30	113	103
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）				5		3		2			0	10
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）						2		3		5	0	10

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（目）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（目）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	13	23	25	24	25	25	25	36	35	113	123
実際に渡航する学生（以下「実渡航」）	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30	113	103
自国にてインターンシップをオンラインで参加する学生（以下「オンライン」）	0	0	0	5	0	3	0	2	0	0	0	10
実渡航とオンライン参加を行う学生（以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	2	0	3	0	5	0	10

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（目）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	4	0	9	0	33	0	0	0	0
実際に渡航した学生（以下「実渡航」）		4		9	0	33				
自国にてインターンシップをオンラインで参加した学生（以下「オンライン」）	A	A	A	A	A	0	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	0	B	B	B	B
実渡航とオンライン参加を行った学生（以下「ハイブリッド」）					0	0				
達成目標に対する実績の割合	0%	31%	0%	36%	0%	132%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	実渡航	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30
	オンライン	5	13	23	20	24	20	25	20	36	30
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生 数	実渡航	0	0	0	5	0	5	0	5	0	5
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	5	0	3	0	2	0	0
		0	0	0	0	0	2	0	3	0	5

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航		4	0	9	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の 交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	0	A	0	A	A
		B	B	B	B	B	0	B	0	B	B
	ハイブリッド					0	0				

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

【特に優れた取組】

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

IUEP受入学生は長期休暇期間中にインターンシップに参加することになっており、大学で修得したビジネス日本語、ビジネスマナー及び関連知識を実践する機会を提供している。インターンシップの参加者数は、2024年度で25名26年度で35名を目標に掲げているが、2024年度ですでに33名の実績があり、132%となっている。

【特に優れた取組】

本事業で受け入れた留学生へは来日後すぐに面談を行い、将来思い描いているキャリアと合致するインターンシップ先を選定しており、2024年度においては、学生はホテル、富山県上市町役場、群馬県館林市役所、奈良県天川村、岩手県遠野市など、全国各地の様々な地域においてインターンシップに従事した。インターンシップ先の多くは地方に位置しており、学生は東京を離れて地域に滞在し、生活及び就業体験を通じて、日本の地方文化や地域産業への理解を深める貴重な機会を得た。

(5) 【交流相手国別の交流学生数 内訳】 (実績)

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		148	167	478	286	225	284	0	0	0	0	851	737
インドネシア	実渡航				2	0	3					0	5
	オンライン	94	117	29	110	0	24					123	251
	ハイブリッド					0	0					0	0
英国	実渡航	7	2	38	5	7	15					52	22
	オンライン			29	5	18	5					47	10
	ハイブリッド					0	0					0	0
タイ	実渡航	2	2	45	5	47	24					94	31
	オンライン	11	11	56	15	31	30					98	56
	ハイブリッド					0	0					0	0
韓国	実渡航	13	17	19	20	63	50					95	87
	オンライン		2	48	3	0	0					48	5
	ハイブリッド					0	0					0	0
オーストラリア	実渡航	16	5	4	64	3	40					23	109
	オンライン	5		159	12	13	6					177	18
	ハイブリッド					0	0					0	0
オランダ	実渡航		8	20	8	6	26					26	42
	オンライン			12	5	8	13					20	18
	ハイブリッド					0	0					0	0
カナダ	実渡航			2	1	0	2					2	3
	オンライン					0	0					0	0
	ハイブリッド					0	0					0	0
イタリア	実渡航		2	8	7	8	19					16	28
	オンライン			8	18	20	7					28	25
	ハイブリッド					0	0					0	0
ウズベキスタン	実渡航			1	3	1	6					2	9
	オンライン					0	0					0	0
	ハイブリッド					0	0					0	0
米国	実渡航		1		3	0	0					0	4
	オンライン					0	0					0	0
	ハイブリッド					0	0					0	0
台湾	実渡航					0	4					0	4
	オンライン					0	10					0	10
	ハイブリッド					0	0					0	0

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

単位互換を実施する 海外相手大学数	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	3	5	8	8	8	8	8	8	11	11

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東洋大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨークセントジョン大 学	認定者数	3	12	12	12	16
	認定単位数	40	140	140	140	165
カーディフ大学	認定者数	1	1	1	1	2
	認定単位数	20	20	20	20	40
カーティン大学	認定者数		1	1	1	2
	認定単位数		20	20	20	40
カレッジオブニュー ジャージー	認定者数		1	1	1	2
	認定単位数		10	10	10	30
釜山外国語大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		20	20	20	20
仁荷大学	認定者数	1	2	2	2	2
	認定単位数	20	40	40	40	40
大邱大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		20	20	20	20
シーナカリンウィロ ート大学	認定者数		1	1	1	1
	認定単位数		20	20	20	20
チュラロンコン大学	認定者数					1
	認定単位数					20
チェンマイ大学	認定者数					1
	認定単位数					20

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

単位互換を実施した 海外相手大学数	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	5	10	15	19	15	19				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東洋大学】

相手大学名	学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ヨークセントジョン 大学	認定者数	5	6	0		
	認定単位数	72	76	0		
カーディフ大学	認定者数	2	3	3		
	認定単位数	30	60			
カーティン大学	認定者数	21	5	3		
	認定単位数	30	29			
カレッジオブニュー ジャージー	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
釜山外国語大学	認定者数	13	17	40		
	認定単位数	7	40	12		
仁荷大学	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	0	0	0		
大邱大学	認定者数	0	1	23		
	認定単位数	0	0	5		
シーナカリンウィ ロート大学	認定者数	0	1	2		
	認定単位数	0	9			
チュラロンコン大学	認定者数	0	37	43		
	認定単位数	0	68			
チェンマイ大学	認定者数	2	0	2		
	認定単位数	16	0			

ダルマプルサダ大学	認定者数	A/B					1
	認定単位数	A/B					20
年度別認定者数合計			5	20	20	20	30
年度別認定単位数合計			80	290	290	290	435

ダルマプルサダ大学	認定者数		0	0	0		
	認定単位数		0	0	0		
リージェンツ大学ロンドン	認定者数	A(学部生)	0	13	1		
	認定単位数	A(学部生)	0	6			
セントラル・ランカシャー大学	認定者数	A(学部生)	0	15	3		
	認定単位数	A(学部生)	0	26			
ブラパー大学	認定者数	A(学部生)	0	9	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	18	0		
ウズベキスタン国立世界言語大学	認定者数	A(学部生)	0	1	1		
	認定単位数	A(学部生)	0	5			
フィレンツェ大学	認定者数	A(学部生)	0	0	1		
	認定単位数		0	0			
トリノ大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2		
	認定単位数	A(学部生)	0	20			
ボローニャ大学	認定者数	A(学部生)	0	6	5		
	認定単位数	A(学部生)	0	52			
アムステルダム応用科学大学	認定者数	A(学部生)	0	5	6		
	認定単位数	A(学部生)	0	97			
ダグラス大学	認定者数	A(学部生)	0	2	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	23	0		
トビリシ自由大学	認定者数		0	0	0		
	認定単位数		0	0	0		
泰日工業大学	認定者数		0	0	0		
	認定単位数		0	0	0		
文藻外語大学	認定者数		0	0	0		
	認定単位数		0	0	0		
年度別認定者数合計			43	123	135	0	0
年度別認定単位数合計			155	529	17	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	横浜国立大学		
主な交流先	インド・オーストラリア		
事業名	【和文】	レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム	
	【英文】	YOKOHAMA International Education Program for Leading Sustainability Transformation towards a Resilient Society with Industry-Government-Academia Network	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	田名部 元成	(所属・職名) 副学長（教育・国際担当）
	(交替年月日)	2024年4月1日	
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用			
https://global.ynu.ac.jp/education/			

2. 交流学生数の実績等 [(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ]

(1) 交流する学生数について

①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	12	12	18	18	0	0	0	0	0	0	30	30
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	18	18	18	18	18	18	54	54

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	12	12	18	18	18	18	18	18	18	18	84	84
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	12	12	18	18	0	0	0	0	0	0	30	30
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	18	18	18	18	18	18	54	54

②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)

各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	9	12	21	20	18	23	0	0	0	0
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	9	12	2	4		2				
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)			19	16	18	21				
達成目標に対する実績の割合	75%	100%	117%	111%	100%	128%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	12	12	18	18	18	17	18	17	18	17
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	18	17	18	17	18	17
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	9	0	21	0	18	21	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	2	0	4	0	2	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	10	0	16	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
		9	0	21	0	18	21	0	0	0	0
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	9		2							
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
			19		18	21					
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航		2		4		2				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		0	2	0	4	0	2	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航		10		16		0				
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		0	10	0	16	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航										
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	ハイブリッド	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

インダストリアルツアー（企業訪問）について

パートナー大学への派遣に先立ち、学生はグループごとに3日間（1日2時間）にわたりSX課題に関する討論を実施した。これに加えて、横浜、神奈川エリアの企業訪問と工場・研究所の見学を通じて、実社会における課題解決の現場を体験した。また、派遣先大学の各大学に対してもSX課題に即したプログラムの構築を依頼し、ラボツアー、専門分野の概論講義、関連企業の訪問、学内外のイベント参加など、各大学の特色を生かした多様な学修機会が設定された。

中長期のインターンシップについて

本プログラムにおける中長期のインターンシップは、現時点では未実施である。主な理由としては、派遣先大学および受入機関との実施内容の調整に加え、渡航スケジュールの確定や手続き、ビザ要件の確認等に相応の時間を要することが挙げられる。

今後も、渡航時期や実施形態（短期滞在型やPBL型演習への参加など）を多様に設計し、より多くの学生が参加しやすい環境の整備を進めて行く予定である。

【特に優れた取組】

本プログラムは、実社会の課題に基づいた学際的かつ実践的な学修機会を国際的な産学連携の枠組みで体系化している。企業から提示された課題に基づき、交流開始前から学生が主体的に討論し、派遣先大学にもそれに沿ったプログラム構築を依頼したことで、学修内容と地域産業との連携が深まっている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

インダストリアルツアー（企業訪問）について

横浜・神奈川の産官学ネットワークを活用し、2022年度から2024年度の3年間にわたり、延べ12社へのインダストリアルツアーを実施した。パートナー大学からの学生受入時には、複数企業が提供するSX課題に基づき3日間（1日2時間）の討論と、2日間（5社）の企業訪問および見学を行った。2024年度は、製造業2社および金融業1社から課題提供を受け、より多様な分野での学びの機会を創出した。

中長期のインターンシップについて

(1) 実績

- ・県内研究機関にて、博士課程の留学生1名が2024年8月に1カ月間、修士課程の1名が2024年8月～10月に3カ月間、計2名が参加した。
- ・県内企業にて、修士課程の留学生1名が2024年8月下旬から2週間参加した。

(2) 進捗状況

- ・上記の受入先その他、国費留学生を対象としたインターンシップ受入についても、複数の県内企業と交渉・協議を進めている。
- ・そのうち1社からは前向きな回答があり、今後は具体的な受入時期や内容を調整する予定である。

【特に優れた取組】

県内研究機関における博士課程学生の受入は、高度専門型インターンシップとして、外国人材の育成と研究機関との連携強化の両面で効果を上げており、今後の展開に向けた好事例と評価できる。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 横浜国立大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	2	4	4
Griffith University	認定単位数	A(学部生)	2	4	4	4	4
	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
University of Newcastle	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
University of Newcastle	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
Panjab University	認定単位数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
Panjab University	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
IIT Kanpur	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
Anna University	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
VIT	認定単位数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
	認定者数	B(大学院生)	2	2	2	2	2
年度別認定者数合計			12	18	18	18	18
年度別認定単位数合計			12	18	18	18	18

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	0	0	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：横浜国立大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	0	0
Griffith University	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
University of Newcastle	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
University of Newcastle	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
Panjab University	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
Panjab University	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
IIT Kanpur	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
Anna University	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
VIT	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	新潟大学			
主な交流先	インド・オーストラリア			
事業名	【和文】	インド太平洋地域の「仮想フィールド」を活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム		
	【英文】	Human Resource Development Program on Field Science Research in the Indo-Pacific Region		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	坪井 望	(所属・職名) 副学長 (国際交流)	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.sc.niigata-u.ac.jp/s-earth/>

2.交流学生数の実績等 [(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ]

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	60	65	65	70	65	70	80	85	290	310
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	20	20	40	40	40	40	40	40	50	50	190	190
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)			20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	20	60	65	65	70	65	70	80	85	290	310
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	20	20	40	40	40	40	40	40	50	50	190	190
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	20	29	93	76	183	83	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0						
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
	B	19	B	29	B	72	B	44	B	139	B	50
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	1	0	21	32	44	33						
達成目標に対する実績の割合	100%	145%	155%	117%	282%	119%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	50	54	51	55	51	55	62	65
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	40	40	40	40	40	40	50	50
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	6	7	8	10	8	10	9	13
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	4	6	5	6	5	9	7
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	91	71	180	76	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 72	B 44	B 139	B 50	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	19	27	41	26				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	3	1				
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	2	5	0	6	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	2	5	0	6				
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	20	29	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 19	B 29	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	1	0	0	0	0	0				
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
		B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0				

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

これまでのプログラムで派遣した学生数は、当初の計画人数を大きく上回っている。特に新設したオンライン英語科目については、2023年度に72名、2024年度に139名が受講しており、2025年度も計画人数以上の学生がオンラインプログラムに参加予定である。

実渡航を伴うプログラムでは、当初の計画通り、現地教員による講義、フィールドワーク及び企業訪問を実施し、現地学生との国際交流、文化体験、グループワークを実施した。フィールドワークが可能な現地季節を考慮し、北インド地域（9月）、南インド地域（含スリランカ）（12月）、オーストラリア（3月）として派遣時期を設定した。これにより、プログラムに参加を希望する各学生がスケジュールを調整しやすくなり、参加人数の増加へと繋がっている。また、一部の短期プログラム参加学生は、より発展的な学習へ取り組む中期・長期プログラムへ参加しており、本プログラムが学生の学習意欲を引き出す体系的な学習設計として機能している。これら発展的な中期・長期プログラムに参加した学生は、試料分析・解析だけでなく現地教員及び学生とのグループワークやセミナーを通じてフィールド科学の価値観を醸成し、国際学会での発表や英字論文の公表に至っている。特にインドへ派遣した学生は、ITやデータ処理に関する高度な技術を学ぶ機会を得た。

【特に優れた取組】

- ・9大学の協定派遣校のうち8大学に関して派遣予定人数を上回った。
- ・スリランカ（ペラデニア大学）へ24人を派遣し、先方大学において受入歴代最高人数を記録した。
- ・2024年度の派遣先であるインド工科大学ルールキー校では、現地担当教員によるアントレプレナーシップに関わる教育が実施された。
- ・インド派遣の学生が「仮想フィールド」シンポジウムで英語で成果を発表した。また、派遣した本学学生の一部は、学習内容に基づいて新潟県内のフィールドから課題を見出し、SDGsに関わる論文が査読付きの英文誌に掲載された。
- ・長期プログラムを修了した学生には、デジタル学習歴証明「オープンバッジ」を発行した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

派遣プログラムと同様、当初の計画人数を大きく上回る学生を受け入れた。

7月に実施する短期プログラムでは、まず本学学生と共通のオンライン英語科目を受講し、それに次いで本学にて講義、グループワーク、フィールドワークに取り組む課題解決型プログラムを実施している。印豪錫から2023年度に32名、2024年度に33名を受け入れており、2025年度もすでに計画人数以上の学生を受入済みである。参加学生は、国際的な協働共修を通して、自然及び文化的背景の違いに基づくフィールドと社会の在り方を理解した。

【特に優れた取組】

- ・ペラデニア大学、インド工科大学ルールキー校と、DDP協定を締結した。
- ・中期・長期プログラムを修了した学生には、デジタル学習歴証明「オープンバッジ」を発行した。
- ・オーストラリアのマッコーリー大学からは、New Colombo Plan奨学金を使用して参加する学生を受け入れている。

(2) インターシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調査記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）			20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

●海外相手大学追加調査分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	20	25	25	30	25	30	30	35	100	120

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
【交流形態別 内訳】													
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	21	32	44	33	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	21	32	44	33						
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0						
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0						
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0						
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0						
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0						

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

・2023年派遣学生21名、2024年派遣学生44名がフィールド系企業（インド・オーストラリア）やIT企業（インド）、産業系企業（オーストラリア・スリランカ）を訪問し、本プログラムの学習内容と地域社会との関係について学習した。

【特に優れた取組】

・起業文化の強いインド工科大学への派遣では、オンライン－オンサイトを連結させたアントレプレナー教育を含むプログラムを実施し、フィールド科学の実践的な社会還元の可能性を理解するとともに、キャリアビジョンの形成を行った。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

・2023年受入学生32名、2024年受入学生33名がフィールド系企業を訪問し、本プログラムの学習内容と地域社会との関係について学習した。

・本学で受け入れた長期プログラム参加学生は、事前に実施した地域訪問及び事前学習を経て、フィールド関連企業の提供するインターンシップに参加した。このインターンシップでは、SDGs・防災・減災などの世界的課題に対して、どのように資源を有効活用し、同時に環境に配慮してステークホルダーに貢献するかを学ぶ機会となった。現場活動の期間中、参加学生は、自他国の違いを認識した上で課題解決型プログラムに取り組み、持続可能社会の在り方について価値観を醸成することができた。

【特に優れた取組】

・新潟大学において留学生に対して英語でのインターンシップの取り組みが本件が初めての試みであり、今後も拡大していく予定である。

・防災や減災などの世界的課題解決に向けた企業との連携を通して、参加学生は、自他国の違いを認識した上で課題解決型プログラムに取り組み、持続可能社会の在り方について価値観を醸成することができた。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する海外相手大学数	0	0	9	9	9	9	9	9	9	9

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：新潟大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			短期オンライン型プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	20	0
	認定単位数	1	0	20	0	0	
短期ハイブリッド型プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	4	0	0	2	
	認定単位数	2	0	4	0	2	
中期プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	2	0	1	0	
	認定単位数	2	0	4	2	0	
長期プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	0	0	1	1	
	認定単位数	8	0	0	4	4	
短期オンライン型プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	20	0	
	認定単位数	1	0	0	20	0	
短期ハイブリッド型プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	2	0	3	2	
	認定単位数	2	0	2	3	2	
中期プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	2	2	
	認定単位数	2	0	0	4	4	
長期プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	0	1	
	認定単位数	4	0	0	0	4	
短期オンライン型プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	0	0	15	
	認定単位数	1	0	0	0	15	
短期ハイブリッド型プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	2	0	2	
	認定単位数	2	0	0	2	2	
中期プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	2	0	2	
	認定単位数	2	0	0	4	4	

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した海外相手大学数	0	0	8	8	9	9				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：新潟大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			短期オンライン型プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	5	4
	認定単位数	1	0	4			
短期ハイブリッド型プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	5	4			
	認定単位数	2	0	10			
中期プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	0	1			
	認定単位数	2	0	2			
長期プログラム(インド理工科大学院大学, インド)	認定者数	0	2	0			
	認定単位数	8	0	16			
短期オンライン型プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	2	4			
	認定単位数	1	0	4			
短期ハイブリッド型プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	2	4			
	認定単位数	2	0	8			
中期プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0			
	認定単位数	2	0	0			
長期プログラム(コーチン科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0			
	認定単位数	4	0	0			
短期オンライン型プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	5			
	認定単位数	1	0	5			
短期ハイブリッド型プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	5			
	認定単位数	2	0	10			
中期プログラム(インド工科大学ルールキー校, インド)	認定者数	0	0	0			
	認定単位数	2	0	0			

長期プログラム(インド工科大学ルーラーキー校, インド)	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	4	0	0	0	0
短期オンライン型プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	20	0	0
	認定単位数	1	0	0	20	0
短期ハイブリッド型プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	4	0	2
	認定単位数	1	0	0	4	2
中期プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	2	0	0
	認定単位数	2	0	0	4	0
長期プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	1	0	1
	認定単位数	4	0	0	4	4
短期オンライン型プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	0	15
	認定単位数	1	0	0	0	15
短期ハイブリッド型プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	2	0	1	2
	認定単位数	2	0	2	0	1
中期プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	1	1
	認定単位数	2	0	0	0	2
長期プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0	0	1
	認定単位数	4	0	0	0	4
短期オンライン型プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	10	10	0
	認定単位数	1	0	0	10	10
短期ハイブリッド型プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	3	5	0
	認定単位数	2	0	0	3	5
中期プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	0	0	0
	認定単位数	2	0	0	0	0
長期プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	1	1	1
	認定単位数	4	0	0	4	4
短期オンライン型プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	20	0	0	20
	認定単位数	1	0	20	0	20
短期ハイブリッド型プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	2	0	0	2
	認定単位数	2	0	2	0	2
中期プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	2	1	1	2
	認定単位数	2	0	4	2	4
長期プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	2	1	1	2
	認定単位数	4	0	8	4	8

長期プログラム(インド工科大学ルーラーキー校, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	4	0	0	0	
短期オンライン型プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	1	0	0	0	
短期ハイブリッド型プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	1	0	0	0	
中期プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	2	0	0	0	
長期プログラム(インド工科大学カーンプル校, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	4	0	0	0	
短期オンライン型プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	5	0		
	認定単位数	1	0	5	0	
短期ハイブリッド型プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	5	0		
	認定単位数	2	0	10	0	
中期プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	2	0	0	0	
長期プログラム(インド宇宙科学技術大学, インド)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	4	0	0	0	
短期オンライン型プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	24		
	認定単位数	1	0	0	24	
短期ハイブリッド型プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	24		
	認定単位数	2	0	0	48	
中期プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	2		
	認定単位数	2	0	0	4	
長期プログラム(ペラデニア大学, スリランカ)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	4	0	0	0	
短期オンライン型プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	0	7		
	認定単位数	1	0	0	7	
短期ハイブリッド型プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	0	7		
	認定単位数	2	0	0	14	
中期プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	2	0	0	0	
長期プログラム(カーティン大学, オーストラリア)	認定者数	0	0	0		
	認定単位数	4	0	0	0	

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	千葉大学		
主な交流先	英国・インド・オーストラリア		
事業名	【和文】	グローバル地域ケアIPEプラス創生人材の育成プログラム（GRIP Program）	
	【英文】	Global & Regional Interprofessional Education Plus Program（GRIP Program）	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	増島 麻里子	(所属・職名) 大学院看護学研究院長
	(交替年月日)	2025.4.1	
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1	※追加大学なし	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
10			

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://www.n.chiba-u.jp/grip/about.html>

2.交流学生数の実績等 [(1) (2) はそれぞれ6ページ以内、(3) (4) で1ページ]

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)											0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	10	10	15	15	20	20	30	30	40	40	115	115
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は (iii) 表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	10	10	15	15	20	20	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)												
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
達成目標に対する実績の割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	10	0	15	3	20	3	30	5	40	8
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	10	0	15	3	20	3	30	5	40	8
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	10	0	12	0	17	0	25	0	32
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	10	10	10	10	20	15	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド	10	10	10	10	20	15					
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	5	5	0	5	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド			5	5		5					
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
ハイブリッド											

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド					2	0				
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
	ハイブリッド										

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの
B	もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度は計画のとおり、千葉大学医学部5年生2名をイギリス・レスター大学に派遣した。派遣期間は2025年2月10日から3月6日までであり、学生はまずホームレス支援を主題とする8日間の合同プログラム（ISL：Interprofessional Service Learning）に参加した後、現地医療機関であるレスター大学関連病院において2週間にわたるクリニカルインターンシップを実施した。インターンシップの診療科は精神科および小児科であり、両名はそれぞれの専門分野に応じた現場研修を経験した。

【特に優れた取組】

本プログラムの特筆すべき点として、ISL（Interprofessional Service Learning）とクリニカルインターンシップとが密接に連動し、一連の体験の中で教育効果を最大限に高めている点である。学生は最初にISLに参加し、現地で多職種混成チームの一員として社会課題の解決を目指す実践的な活動に主体的に取り組んだ。その際に培われた社会課題の本質理解、多様な職種との協働、柔軟な思考力といった資質について学んだのち、クリニカルインターンシップに臨む構成となっている。

このように、ISLで社会的文脈を踏まえたチーム活動を経験した後、直ちに臨床実践に接続する構成としたことにより、社会的・地域的課題への視点と臨床の現場対応力とが有機的に結びつく学修サイクルを実現している。本プログラムは、単なる知識や技術の修得にとどまらず、学生が異なる領域の学びと現場の実践、そして国際社会への貢献意識を連続的に深化させることができる点で、他のプログラムにはない独自性と先進性を備えている。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度のイギリス・レスター大学からのクリニカルインターンシップ受入については、レスター大カリキュラム上の調整、実施時期の擦り合わせに慎重を期した結果、2024年度内の受入は見送った。レスター大学からは短期合同プログラム（ISL）のみ5名の学生受入を実施し、今後のクリニカルインターンシップ受入本格化に向けて体制整備を進めている。

【特に優れた取組】

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	0	2	1	3	3	3	3	3	3

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名	学生別		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			シンビオシス国際大学	認定者数	2	2	2
		認定単位数	1	1	2	2	2
レスター大学	認定者数			1	1	1	1
	認定単位数			1	1	2	2
モナシュ大学	認定者数				1	1	1
	認定単位数				1	1	2
年度別認定者数合計			2	3	4	4	4
年度別認定単位数合計			1	2	4	5	6

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
				認定者数			
		認定単位数					
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	1	1	1	1				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：千葉大学】

相手大学名	学生別		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			シンビオシス国際大学	認定者数	0	10	15
		認定単位数	0	20	30		
レスター大学	認定者数			0	0		
	認定単位数			0	0		
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	10	15	0	0
年度別認定単位数合計			0	20	30	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名	学生別		2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
				認定者数			
		認定単位数					
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	東京藝術大学			
主な交流先	英国・インド・オーストラリア			
事業名	【和文】	Shared Campus（国際共創キャンパス）を活用した日英豪印 SDGs × ARTs グローバルリーダー養成プログラムー世界を幸福にするイノベーション創出ー		
	【英文】	Japan-UK-Australia-India SDGs x ARTs Global Leadership Initiative collaboration with Shared Campus (International Co-Creation Campus) -Creating innovations for world happiness-		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	今村 有策	(所属・職名) 美術研究科・教授	
	(交替年月日)			
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)	(英語表記)	
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
 ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

<https://indo-pacific.geidai.ac.jp/>

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	6	10	21	10	21	10	21	10	21	42	90
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9	12	36
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9	26	42
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)											0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)											0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	2	6	10	21	10	21	10	21	10	21	42	90
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9	12	36
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9	26	42
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	24	4	10	30	16	79	0	0	0	0		
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A		
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	B 14	B 0	B 3	B 17	B 7	B 3	B	B	B	B		
達成目標に対する実績の割合	0	0	6	13	4	21						
	1200%	67%	100%	143%	160%	376%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	2	6	6	9	6	9	6	9	6	9
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	1	3	1	3	1	3	1	3
	オンライン	0	0	1	3	1	3	1	3	1	3
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9
	オンライン	0	0	3	9	3	9	3	9	3	9
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	9	4	7	17	8	65	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 17	B 0	B 0	B	B	B	B	
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	15	0	3	11	7	13	0	0	0	0
	オンライン	A 1	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 14	B 0	B 3	B 0	B 7	B 3	B	B	B	B	
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B	

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

派遣プログラムについては、連携校のロンドン芸術大学（イギリス）、モナッシュ大学（オーストラリア）、ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン（NID）（インド）の3校との交流プログラムを行った。令和6年度は、本事業における3つの交流プログラム「サマープログラム」「セメスタープログラム」「レクチャープログラム」を実施した。

■サマープログラム

令和6年6月～7月に、本学とロンドン芸術大学との連携による企画運営で「[Shared Campus Summer School + IUEP 2024 Athens]エクストラクティブリアリティとエコロジカルな共鳴」をギリシャ・アテネにて実施し、美術研究科の学生4名を派遣した。

令和6年9月～10月には、本学とモナッシュ大学との連携による企画運営で「[Shared Campus Summer School + IUEP 2024 Prato]クリティカルエコロジーズとエクストラクティブイズム2024 ▶ プラート編」をイタリア・プラートにて実施し、美術研究科の学生2名を派遣した。

令和6年12月には、本学とNIDとの連携により「[SDGs x Arts | Open Elective + IUEP 2024 Ahmedabad]ケアのカルチャー - デザインを通してケアを想像する『高齢者と共に考えるアートを通じたケアのあり方』」をインド・アーメダバードにて実施し、美術学部の学生2名を派遣した。

■セメスタープログラム

令和6年12月～令和7年1月には、本学とNIDとの連携により、「[SDGs x Arts | Semester Research Residence Program 2024 Ahmedabad]NID × 東京芸術大学」を実施し、美術学部の学生1名を派遣した。

■レクチャープログラム

令和7年3月には、本学とロンドン芸術大学との連携により、「[ロンドン芸大との共同授業]REBEL Workshop」を実施し、芸術分野のための新たな教育評価システム「REBEL」を用いたワークショップ等を行い、美術学部の学生1名、美術研究科の学生5名、映像研究科の学生1名をオンラインで派遣した。

【特に優れた取組】

イタリア・プラートおよびインド・アーメダバードで実施したプログラムでは、地元の文化事業団体、企業、工場等との連携を通じて、地域に根ざした実践的な学びを展開するとともに、国際協働の場としても機能させることができた。プラートでは、リサイクルウールを活用しSDGsの達成を目指す地元企業・工場と連携し、持続可能な産業とアートの関係性についての理解を深めるプログラムを設計した。一方、アーメダバードでは、赤十字社や民間の高齢者介護施設と連携し、アートを通じた社会参画のあり方を地域の福祉現場に即して学ぶ機会を提供した。

これらのプログラムでは、多様な言語や文化的背景をもつ学生および地域住民と協働するグループワークを積極的に取り入れ、実践を通じて国際協働力を養うことができた。学生たちは英語での意思疎通能力の向上に加え、異なる価値観や社会的背景をもつ他者との協働を経験することで、国際的視野をもった課題解決力とコミュニケーションスキルを身につけることができた。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

受入プログラムについては、連携校のロンドン芸術大学（イギリス）、モナッシュ大学（オーストラリア）、ナショナル・インスティテュート・オブ・デザイン（NID）（インド）の3校との交流プログラムを行った。令和6年度は、本事業における3つの交流プログラム「サマープログラム」「セメスタープログラム」「レクチャープログラム」を実施した。

■サマープログラム

令和6年6月～7月に、本学とロンドン芸術大学との連携による企画運営で「[Shared Campus Summer School + IUEP 2024 Athens]エクストラクティブリアリティとエコロジカルな共鳴」をギリシャ・アテネにて実施し、ロンドン芸術大学の学生6名を受け入れた。

令和6年9月～10月には、本学とモナッシュ大学との連携による企画運営で「[Shared Campus Summer School + IUEP 2024 Prato]クリティカルエコロジーズとエクストラクティブイズム2024 ▶ プラート編」をイタリア・プラートにて実施し、モナッシュ大学の学生25名を受け入れた。

令和6年11月には、本学とモナッシュ大学との連携により、「[SDGs x Arts | Summer School Program 2024 Tokyo]人類学をデザインする」を実施し、モナッシュ大学の学生27名を受け入れた。

令和6年12月には、本学とNIDとの連携により「[SDGs x Arts | Open Elective + IUEP 2024 Ahmedabad]ケアのカルチャー - デザインを通してケアを想像する『高齢者と共に考えるアートを通じたケアのあり方』」をインド・アーメダバードにて実施し、NIDの学生15名を受け入れた。

■セメスタープログラム

令和6年6月～7月に、「[SDGs x Arts | Semester Research Residence Program 2024 Tokyo]」を実施し、NIDより学生1名を受け入れた。プログラム期間中にはNIDの学生による企画でワークショップ「Kaizo Futures：未来のオブジェクトを想像する」を実施したほか、本事業のSDGs x Artsをテーマとする学生サミットをハイブリッド形式で実施した。

令和7年1月～2月には、「[SDGs x Arts | Semester Research Residence Program 2025 Tokyo]」を実施し、ロンドン芸術大学、モナッシュ大学より各1名の学生を受け入れた。

■レクチャープログラム

令和7年3月には、本学とロンドン芸術大学との連携により、「[ロンドン芸大との共同授業]REBEL Workshop」を実施し、芸術分野のための新たな教育評価システム「REBEL」を用いたワークショップ等を行い、ロンドン芸術大学の学生3名がオンラインで参加した。

【特に優れた取組】

受入プログラムにおいては、プログラム設計の初期段階より学外との連携を重視し、取り組みを進めた。プログラムの実施拠点として、地域の施設や団体に限らず、連携大学との綿密な協働関係を基盤とし、それぞれのネットワークを相互に活用することで、活動の場を学外の施設や地域社会へと広く展開した。成果発表も地域の方々に公開する形式で行い、地域との交流を促進する機会を創出した。

また、連携先大学や各大学が有するネットワークとも協働しながらプログラムを設計することで、複雑化するグローバル課題に対し、地域ごとに共通する側面や固有の現象に対して、多角的かつ臨場的な視点でアプローチすることが可能となった。実施地域においては、各大学のネットワークを活かし、地域企業、行政、博物館等との連携によるレクチャーやワークショップを開催し、学生たちは国際的にも通用する実践的な学びを、アートを介して深めることができた。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）											0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）											0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）											0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	1	1	0	1	1	1	1	1	3	4
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②プログラム全体のインターンシップ参加学生数（実績）

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	4	4	2	3	17	0	0	0	0
実際に渡航した学生 （以下「実渡航」）	0	4	1	0	3	2				
自国にてインターンシップを オンラインで参加した学生 （以下「オンライン」）	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A 0 B 0	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン参加を行った学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	3	2	0	15				
達成目標に対する実績の割合	#DIV/0!	200%	400%	200%	#DIV/0!	1700%	0%	0%	0%	0%

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと
B	もともとオンライン実施で準備していたものと

④：【交流形態別 内訳】（実績）

【交流形態別 内訳】	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	4	4	0	2	15	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	3	0	0	15					
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	2	0	0					
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	オンライン	A	0	0	0	0	0	0	A	A	A	A
		B	0	0	0	0	0	0	B	B	B	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0					

A	コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの
B	もとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

サマープログラム[SDGs x Arts | Open Elective + IUOE 2024 Ahmedabad]ケアのカルチャー - デザインを通してケアを想像する『高齢者と共に考えるアートを通じたケアのあり方』では、NIDとの連携により、3名の学生をインドに派遣し、現地の地域福祉施設においてインターンプログラムを実施した。プログラムでは短期滞在型から長期居住型まで運営形態や資金源の異なる3つの福祉施設と連携し、2週間にわたり複数回の訪問を通して展開された。

インド国内では、高齢者が福祉施設を利用することに対する社会的なイメージが必ずしも肯定的とはいえず、受け入れ側の理解や協力が課題となる場面もあったが、本学との連携や、芸術文化を介した学生主体のプログラムであることが、施設側の参加を後押しし、本プログラムの実現へとつながった。このプログラムでは、本学が推進する社会包摂プロジェクト『TURN』の実践的な知見をベースに、アートとデザインの手法を用いて地域コミュニティと福祉施設が抱える課題に取り組んだものであるが、既存のノウハウの活用により、学生の活動が地域社会に自然に広がっていく環境を整えることが可能となった。また、NID側との協力体制も本事業を通じてさらに強化され、実施の大きな支えとなった。

参加学生はそれぞれの興味や得意分野を生かしながら、各施設で入居者の方々と丁寧に向き合い、アートを媒介としたコミュニケーションを実践した。言語面では、多言語国家であるインドにおいて、今回の受け入れ施設ではヒンディー語話者が多く、言葉による対話には困難が伴ったが、土を素材にした「つくる」という創作活動を共にすることによって、言語を超えた共通の体験が生まれ、深い関係性を築くことができた。

【特に優れた取組】

特に優れていた点は、まず第一に、アートを共通言語とすることで異文化・異言語間の壁を越えた実践を伴う学びとなった点である。特に、土を素材とした創作活動は、参加者の言語能力や年齢、身体的状況に関わらず共に取り組める行為であり、言葉を超えた深いコミュニケーションと共通体験を生み出した。これは、アートが持つ「つなぐ力」を体現するものであり、高齢者との関係性構築において極めて効果的であった。

第二に、社会課題への先進的なアプローチとしての意義が挙げられる。インドにおいては高齢者施設の利用が社会的に否定的に捉えられる傾向がある中で、芸術文化を介した取り組みが施設側の理解と協力を促し、実践を可能にした点は非常に意義深い。アートが介在することで、福祉の現場と社会との関係に新たな価値をもたらしたといえる。

第三に、学生主体による活動設計と現場での応用力の高さが挙げられる。学生たちはそれぞれの興味や専門性を活かしながら、現場の状況に応じて柔軟に対応し、丁寧なコミュニケーションを重ねながら活動を展開した。これは、本学がこれまで蓄積してきた『TURN』プロジェクトの知見を土台にしつつ、それを現地の文脈に適切・発展させた実践であり、学習の場を地域社会へと拡張することに成功した好例である。

そして第四に、本学とNIDとの国際連携の深化が挙げられる。異なる文化的背景を持つ高等教育機関同士が、芸術と福祉を横断するテーマで協働した本プログラムは、国際的な教育モデルとしても高い可能性を示している。継続的な信頼関係の構築がなされたことで、今後のさらなる共同事業の展開に向けた重要な基盤が築かれた。

以上のように、本プログラムは、アートによる社会的実践、学生の主体性、国際連携の深化といった多面的な成果を上げた、極めて先進的かつ実践的な試みであったといえる。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

NIDやUALから学生を受け入れたセメスタープログラムでは、学生の専門性を活かした地域密着型の取り組みを実施した。

松戸市と聖徳大学が共同で開催する子ども向けのワークショップイベント「アートパーク」では、アーティスト・イン・レジデンス拠点であるPARADISE AIRと連携し、NID学生がインターンとして参加。身体表現をベースにしたワークショップの企画・実施や、子どもたちの似顔絵を即興で描くアクティビティなど、それぞれの得意分野を活かした活動を展開し、地域住民との創造的な交流の場を育んだ。

また、自身の農園で自然や環境と呼応する長期的なプロジェクトに取り組むUALの学生は、日本の四季の感覚や文化的背景を深く理解するため、千葉県棚田において就農体験を実施。「小さな地球」の里山プロジェクトに参加し、地域住民との対話を重ねながら、日本独自の季節と人々の暮らしの関係性への理解を深めた。

また、NIDとのサマープログラム[SDGs x Arts | Open Elective + IUEP 2024 Ahmedabad]ケアのカルチャー・デザインを通してケアを想像する『高齢者と共に考えるアートを通じたケアのあり方』では、NID学生15名を対象に、地域の高齢者福祉施設でのインターンプログラムを実施した。短期滞在型から長期居住型まで、運営体制や財源の異なる3つの施設と連携し、2週間にわたって複数回の訪問を重ねながら活動を展開した。

インド国内では、高齢者施設に対して社会的にネガティブな印象が根深く残る中で、本学との連携および芸術文化を介した学生主体の取り組みが、施設側の理解を得る鍵となった。実際、参加したNIDの学生や教員の多くにとっても、高齢者施設を訪問するのは初めての経験であり、芸術と福祉の関係性を現場で模索する重要な学びの機会となった。活動中は本学教員もハイブリッド形式で関与し、学生一人ひとりが社会課題と自身の創造的実践との接点を見出すプロセスを丁寧に支援した。

現在インドでは、若年層の海外移住が進む一方で、国内には単身の高齢者が増加しつつあり、地域社会として高齢化にどう向き合うかが大きな課題となっている。本プログラムはそうした社会背景のもとで実施され、現地行政やメディアからも高い関心が寄せられた。活動の成果は新聞にも取り上げられ、最終成果展示にはアムダバード市長も来訪するなど、地域における文化福祉連携の新たなモデルとして注目を集めた。

【特に優れた取組】

特に優れていた点は、学生一人ひとりの専門性を活かした主体的な地域実践が、国際連携の枠組みの中で有機的に展開された点にある。セメスタープログラムの参加学生は、身体表現、環境芸術、コミュニティアートなど、それぞれの得意分野を基軸としながら、地域が抱える課題や文化的背景に応じたインターンシップ活動を設計・実施した。松戸市の子ども向けワークショップイベント「アートパーク」では、学生が即興的な似顔絵制作や身体表現を取り入れたワークショップを実施し、地域住民との創造的な交流を生み出した。加えて、農的実践を行う学生が棚田での就農体験を通じて四季の感覚や土地に根ざした生活文化への理解を深めた事例など、個別の関心と地域の資源が交差する実践が多様に展開された。また、各プログラムにおいては、地域との信頼関係を前提とした継続的・対話的なアプローチが重視されていた点も特筆に値する。一方的な教育・福祉介入ではなく、地域の主体性を尊重しながら共に創る姿勢が一貫しており、これは芸術による社会的実践において不可欠な視点である。

特にNIDとのサマープログラム『[SDGs x Arts | Open Elective + IUEP 2024 Ahmedabad]ケアのカルチャー・デザインを通してケアを想像する『高齢者と共に考えるアートを通じたケアのあり方』』では、インド国内における高齢者施設に対する社会的偏見というセンシティブなテーマに対し、アートを通じて向き合う挑戦的な試みがなされた。参加学生と高齢者が共に活動するプロセスを重視した本プログラムは、芸術文化と福祉を架橋する可能性を提示し、現地の社会的関心も高く、行政やメディアによる注目を集めた。最終成果展示にはアムダバード市長が来訪し、新聞でも広く取り上げられるなど、社会的な波及効果も生まれている。

さらに、本学教員がハイブリッド形式で学生の実践に伴走し、専門的な視点からのフィードバックを重ねたことで、教育的支援と現場実践が高次元で統合された点も重要である。国際連携という枠組みを活かしながら、学生たちは異なる文化圏における社会課題と向き合い、創造的な解決策を模索する中で、ローカルとグローバルを横断する視野と実践力を育んだ。これらの点から、本プログラムは、芸術教育と社会実践、国際協働の接点において非常に先進的かつ実効性の高い取り組みであり、今後のモデルケースとしても大きな意義を持つものといえる。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	2	6	7	12	7	12	7	12	7	12

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロンドン芸術大学（英国）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
モナッシュ大学（オーストラリア）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
National Institute of Design（インド）	認定者数	B(大学院生)	2	4	4	4	4
	認定単位数	B(大学院生)	2	8	8	8	8
年度別認定者数合計			6	12	12	12	12
年度別認定単位数合計			6	24	24	24	24

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	2	3	2						

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：東京藝術大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
ロンドン芸術大学（英国）	認定者数	A(学部生)	2	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	9	0	0		
ロンドン芸術大学（英国）	認定者数	B(大学院生)	7	2	4		
	認定単位数	B(大学院生)	13	11	20		
モナッシュ大学（オーストラリア）	認定者数	B(大学院生)	0	1	2		
	認定単位数	B(大学院生)	0	1	14		
National Institute of Design（インド）	認定者数	B(大学院生)	0	3	1		
	認定単位数	B(大学院生)	0	16	5		
National Institute of Design（インド）	認定者数	A(学部生)	0	1	2		
	認定単位数	A(学部生)	0	1	8		
年度別認定者数合計			9	7	9	0	0
年度別認定単位数合計			22	29	47	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
	認定者数						
	認定単位数						
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）
令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	広島大学		
主な交流先	英国・インド・オーストラリア		
事業名	【和文】	国際協働学習を通じて醸成するアジャイル・アントレプレナーシップ	
	【英文】	Agile Entrepreneurship Development Program through International Collaborative Learning	
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	金子 慎治	(所属・職名) 理事・副学長 (グローバル化担当)
	(交替年月日)		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名
		(日本語表記)	(英語表記)
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		

大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL
※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用

(日本語) <https://agile-indopacific.hiroshima-u.ac.jp/>
(英語) <https://agile-indopacific.hiroshima-u.ac.jp/en/>

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	10	40	17	67	27	47	17	67	27	47	98	268
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	7	27	17	7	7	27	17	7	48	68
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	10	40	17	67	27	47	17	67	27	47	98	268
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40	50	200
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	7	27	17	7	7	27	17	7	48	68
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	3	2	53	60	131	41	0	0	0	0		
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	0						
自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A 0 B 3	A 0 B 2	A 0 B 51	A 0 B 34	A 0 B 114	A 0 B 37	A B	A B	A B	A B	A B	A B
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	2	26	17	4						
達成目標に対する実績の割合	30%	5%	312%	90%	485%	87%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	20	10	0	0	20	10	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	10	40	10	40	10	40	10	40	10	40
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	7	7	7	7	7	7	7	7
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	20	13	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	3	2	51	34	114	37	0	0	0	0
	オンライン	A(学部生) A 2	A 2	A 38	A 34	A 108	A 37	A	A	A	A
	ハイブリッド	B(大学院生) B 1	B 0	B 13	B 0	B 6	B 0	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B(大学院生) B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

COIL型協働教育学習については、2023年度より短期派遣・中長期派遣の参加希望者に向けて、コース受講の必須要件としたことから、2024年度については、2023年度に比べ、さらに2倍強増加し114名の参加があった。短期派遣で夏にインド渡航で10名に対して13名の派遣を実現した。そのうち、1名は中長期派遣の留学先から合流し、印と英の連携大学から15名と2名が各々参加し、連携大学の学生も参加できる多国間交流に進化させた形で実施した。

一方、中長期派遣は、7名枠に対して4名の派遣となった。

【特に優れた取組】

本学における短期派遣プログラムの学びを一層深めるため、オンラインプログラムの参加を必須とした。その結果、本学学生の参加が目標値よりはるかに上回る増加となり、学生交流の大幅な拡充を実現した。さらに、開催地であるBITSピラニに加え、シェフィールド大学及びニューサウスウェールズ大学からの参加も得られ、国際的な学びの場を広げることができた。また、BITSピラニにセメスター留学を行った学生は、自らの提案により6か月間にわたる研究インターンシップを実施した。ニューサウスウェールズ大学にセメスター留学した学生も民間の奨学金を獲得し、インターンシップに取り組むなど、ステップアップ型留学プログラムを通じて養ったアントレプレナーシップ・マインドに基づき、海外におけるインターンシップの実現に至った例が見られている。さらに、これまで本プログラムに参加した派遣及び受入学生十数名が、本学校友会による、社会的環境への関心を持ち、主体的に学問へ取り組む学生の育成を目的とした奨学金に応募し、これを契機として、アントレプレナーシップのさらなる醸成を目的に、学生が主体で運営を行う「AGILE NEXUS」を立ち上げるなど修了生ネットワークの構築が実現した。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度COIL型協働教育学習については、2023年度に比べ、7名増え、41名の参加があった。短期派遣では、印と英の連携大学から15名と2名が各々参加し、連携大学の学生も参加できる多国間交流に進化させた形で実施した。

一方、中長期派遣は、7名枠に対して4名の派遣となった。

【特に優れた取組】

COIL型協働教育学習については、初年度より受入が滞っていたインドの協働大学（IIMB）の学部新設が整い、受入が開始されたこともあり、16名の学生参加を実現した。短期派遣では、印と英の連携大学から15名と2名が各々参加し、連携大学の学生も参加できる多国間交流に進化させた形で実施した。

(2) インターンシップの実施状況について

①本事業で計画している交流学生のうちインターンシップに参加学生数（計画）

●申請時の計画調書記載人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20

●海外相手大学追加調書分

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

●合計人数

各年度の派遣及び受入人数（交流期間、単位取得の有無等の内訳は（iii）表参照）	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20
実際に渡航する学生 （以下「実渡航」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自国にてインターンシップを オンラインで参加する学生 （以下「オンライン」）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン参加を行う学生 （以下「ハイブリッド」）	0	0	4	5	4	5	4	5	4	5	16	20

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入		
【交流形態別 内訳】													
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	2	6	3	3	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	2	6	3	3	0	0	0	0	0	
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと
B	もともとオンライン実施で準備していたものと

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

2024年度のインターンシップについては、2023年度に比べ、派遣学生1名増加となった。インド・ビルラ技術科学大学ピラニ校に中長期留学した学生が約6か月間にわたる研究インターンシップを修了したほか、民間奨学金（業務スーパー奨学金）を受給した学生が、アジャイルプログラムを通じて現在オーストラリアに留学・インターンシップコースに参加中である。さらには、英国のシェフィールド大学に中長期留学していた学生は観光保全のためのインターンシップを1か月間ほど行い、学生の興味や分野に基づいて実施することができた。

【特に優れた取組】

2024年度に実施した派遣型インターンプログラムの事前教育の一環として、2025年2月に本学が主催した採択校連絡会における学生ワークショップに参加し、他の採択校の学生とディスカッションや発表を通じて、アントレプレナーシップ醸成に繋がるディスカッションを行った。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

2024年度に実施したインターンプログラム（受入）では、3名の受入学生が各々インターンシップを行った。2名の留学生在が株式会社サタケに、1名が本学の国際室にてインターンシップを行った。

【特に優れた取組】

2024年度に実施したインターンシップにおいては、本学国際室でインターンシップを行ったインド・ビルラ技術科学大学からの留学生は、インターンシップを通じて日本の高等教育機関における研究活動や教育環境に高い関心を示して活動しており、今後のアカデミックキャリアを日本国内で築く可能性について、積極的に模索している。

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	0	0	4	4	4	4	4	4	4	4

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	2	2
シェフィールド大学	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
ビルラ技術科学大学ピ ラニ校	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
インド経営大学院バン ガロール校	認定者数	B(大学院生)	0	1	1	1	1
	認定単位数	B(大学院生)	0	8	8	8	8
ニューサウスウェール ズ大学	認定者数	A(学部生)	0	2	2	2	2
	認定単位数	A(学部生)	0	16	16	16	16
年度別認定者数合計			0	7	7	7	7
年度別認定単位数合計			0	56	56	56	56

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	0	0	1	1	0	0				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)	0	1	0
シェフィールド大学	認定単位数	A(学部生)	0	2	0		
ビルラ技術科学大学ピ ラニ校	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
インド経営大学院バン ガロール校	認定者数	B(大学院生)	0	0	0		
	認定単位数	B(大学院生)	0	0	0		
ニューサウスウェール ズ大学	認定者数	A(学部生)	0	1	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	10	0		
年度別認定者数合計			0	2	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	12	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名： 大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			認定者数	A(学部生)			
	認定単位数	A(学部生)					
	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

大学の世界展開力強化事業（令和4年度採択）

令和7年度フォローアップ調査票

大学名 (○が代表大学)	○関西国際大学、神戸芸術工科大学、宮崎国際大学			
主な交流先	英国・インド・オーストラリア			
事業名	【和文】	産学官連携ベンチャー・エコ・システム創成による起業家育成カリキュラムの展開		
	【英文】	Nurturing a Global Entrepreneurship Mindset — Start-Up Collaboration among Business Communities, Local Governments and a University Global Network		
事業責任者 ※交替年月日は変更があった場合のみ記入	(氏名)	川脇 康生	(所属・職名) 学長補佐（グローバル推進担当）	
	(交替年月日)	令和7年4月1日		
海外相手大学追加調査分 相手大学名 ※追加調査を提出した大学のみ記入	大学名		国名	
		(日本語表記)		(英語表記)
	1	FPT大学	FPT University	ベトナム
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
10				
大学の世界展開力強化事業に係る大学作成ウェブサイトのURL ※日本学術振興会ホームページにおいて、各事業のリンク先として使用				
https://www.kuins.ac.jp/GlobalExpansion/				

2.交流学生数の実績等【(1) (2)はそれぞれ6ページ以内、(3) (4)で1ページ】

(1) 交流する学生数について												
①プログラム全体の派遣・受入交流学生数(計画)												
●申請時の計画調書記載人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	10	15	13	32	20	23	13	33	20	23	76	126
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	20	25	25	26	20	40	25	26	25	40	115	157
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
●海外相手大学追加調書分												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	0	0	0	0	0	2	3	2	3	2	6	6
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
●合計人数												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航する学生 (以下「実渡航」)	10	15	13	32	20	25	16	35	23	25	82	132
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講する学生 (以下「オンライン」)	20	25	25	26	20	40	25	26	25	40	115	157
実渡航とオンライン受講を行う学生 (以下「ハイブリッド」)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②プログラム全体の派遣・受入交流学生数(実績)												
各年度の派遣及び受入人数(交流期間、単位取得の有無等の内訳は(ⅲ)表参照)	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度			
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	10	15	277	28	230	45	0	0	0	0		
自国にて国際教育・交流プログラムを オンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)	B	0	B	266	B	9	B	221	B	2	B	0
達成目標に対する実績の割合	33%	38%	729%	48%	575%	69%	0%	0%	0%	0%		
A	コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものと											
B	もともとオンライン実施で準備していたもの											

●合計

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	20	24	25	33	20	40	25	30	25	40
	オンライン	10	10	10	19	10	20	10	16	10	20
	ハイブリッド	10	14	15	14	10	20	15	14	15	20
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	10	16	10	20	15	20	10	26	15	20
	オンライン	0	5	0	8	5	0	0	14	5	0
	ハイブリッド	10	11	10	12	10	20	10	12	10	20
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	3	5	5	5	6	5	8	5
	オンライン	0	0	3	5	5	5	6	5	8	5
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	8	2	274	3	228	3	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 266	B 0	B 221	B 0	B	B	B	B
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	2	13	2	24	2	42	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 8	B 0	B 2	B	B	B	B
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B 0	B	B	B	B
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A 0	A	A	A	A
	ハイブリッド	B 0	B 0	B 0	B 1	B 0	B 0	B	B	B	B

A コロナ禍の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したもの
 B もともとオンライン実施で準備していたもの

④：【交流形態別 内訳】（実績）

	学生別	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
【交流形態別 内訳】											
①単位取得を伴う 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②単位取得を伴う 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③単位取得を伴う 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④上記以外の 交流期間30日未満の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤上記以外の 交流期間30日以上3ヶ月未満の交流 学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		B	0	B	0	B	0	B	0	B	0
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑥上記以外の 交流期間3ヶ月以上の交流学生数	実渡航	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	オンライン	A	0	A	0	A	0	A	0	A	0
		A(学部生)	B	0	B	0	B	1	B	0	B
	ハイブリッド	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

A	コロナ補の影響により、実渡航からオンラインへ切り替えて実施したものの
B	もともオンライン実施で準備していたもの

⑤：交流プログラム(派遣)の進捗状況のコメント

現時点で派遣実績はないが、Venture Makers (VM) 研修修了者を中心に、海外協力校在地企業等でのインターン研修を希望する学生が出るように、ビジネスレベルの英語力育成と現地受け入れ企業の開拓に取り組んでいる。具体的には、本事業を活用したIELTS講座の開講により4技能型・海外志向型の英語教育の強化を推進を行うとともに、留学経験がある学生のステップアップとしてもインターンシップ参加を促している。加えてVMに関するWestern Sydney University (WSU) とのCOIL授業や神戸での受入れ研修・国際学生起業家会議等を通じて学生の起業家精神を醸成し、海外でのインターンへの意識付けを行っている。また海外での受け入れ先確保に向けて、WSU短期派遣プログラム実施時や本学関係者の海外協力大学訪問時に地元起業家や投資家、日系企業等への説明・働きかけを行っている。

【特に優れた取組】

特になし。

⑥：交流プログラム(受入)の進捗状況のコメント

Venture Makers (VM) カリキュラム委員会などを通じ、外国人学生に日本企業や労働慣行・文化を学ぶニーズがあること、また複数の海外協力大学からはインターン派遣のための奨学金を自国政府等から獲得する用意があることが示されている。2024年度の実績を出すことはできなかったものの、これらを踏まえ、引き続き本事業で受入れ先の開拓を図るとともに、大学のキャリア支援部門が運営する文部科学省の留学生就職促進教育プログラム認定事業と情報を共有のうえ、大学都市神戸産官学プラットフォームや大学コンソーシアムひょうご神戸の「ひょうご留学生インターンシップ」などにコンタクトし情報収集や協議を進めている。

併せて、これまでの取り組みにより地方でのインターン受け入れには日本語能力が求められることが判明していることを踏まえ、インターンシップ希望の外国人学生向けに来日前のオンデマンドの日本語入門の教材を年内にJV-Campusに掲載予定であり、また同教材と来日後短期の日本語特訓コースを組み合わせた中期受入プログラム案について各大学と協議しつつ検討している。

【特に優れた取組】

特になし。

(5) 【交流相手国別の交流学生数 内訳】 (実績)

		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度		合計	
		派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
		10	15	277	28	230	45	0	0	0	0	517	88
オーストラリア	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	0	0	266	8	221	2					487	10
	ハイブリッド	10	9	10	9	9	8					29	26
英国	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド	0	2	0	3	0	3					0	8
カナダ	実渡航	0	0	1	0	0	27					1	27
	オンライン	0	0	0	0	0	0					0	0
	ハイブリッド	0	2	0	3	0	2					0	7
インド	実渡航	0	0	0	0	0	0					0	0
	オンライン	0	0	0	1	0	0					0	1
	ハイブリッド	0	2	0	4	0	3					0	9
ベトナム	実渡航					0	0					0	0
	オンライン					0	0					0	0
	ハイブリッド					0	0					0	0

(6) 本事業における海外相手大学との単位互換の目標と実績

【本事業で計画している海外相手大学との単位互換の達成目標】

(i) 単位互換を実施する海外相手大学数【計画】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施する 海外相手大学数	1	4	1	4	3	5	4	5	4	5

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【計画】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣する日本人学生が取得した単位の互換】

1. 代表申請大学 【大学名：関西国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	18	23
	認定単位数	A(学部生)	24	39	36	29	45
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	1	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	6	0	0
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	1
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	6
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
FPT University	認定者数	A(学部生)				3	3
	認定単位数	A(学部生)				6	6
年度別認定者数合計			18	23	23	23	30
年度別認定単位数合計			24	39	42	35	57

【2024年度末における目標の達成状況】

(i) 単位互換を実施した海外相手大学数【実績】

(単位：校)

	2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入
単位互換を実施した 海外相手大学数	1	1	2	1	1	2				

(ii) 相手大学ごとの単位互換内訳【実績】

(単位：認定者数は人、認定単位数は単位)

【派遣した日本人学生が取得した単位の互換】

(i) 代表申請大学 【大学名：関西国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
			WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	8	8
認定単位数	A(学部生)	8		8	7		
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	1	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	12	0		
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
FPT University	認定者数	A(学部生)			0		
	認定単位数	A(学部生)			0		
年度別認定者数合計			8	9	7	0	0
年度別認定単位数合計			8	20	7	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：神戸芸術工科大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	6	8	8	8	8
	認定単位数	A(学部生)	8	13	14	11	11
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	0	1	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	4	0
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	0	1	0	1
	認定単位数	A(学部生)	0	0	4	0	4
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
FPT University	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
年度別認定者数合計			6	8	9	9	9
年度別認定単位数合計			8	13	18	15	15

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	6	7	8	8	8
	認定単位数	A(学部生)	8	9	14	11	11
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	1
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	4
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	0	0	1	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	4	0
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0	0	0
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0	0	0
FPT University	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
年度別認定者数合計			6	7	8	9	9
年度別認定単位数合計			8	9	14	15	15

2. 国内連携大学 【大学名：神戸芸術工科大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
FPT University	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0

2. 国内連携大学 【大学名：宮崎国際大学】

相手大学名		学生別	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
WSU-SSE	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
Keele University	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
Vancouver Island University	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
University of Delhi	認定者数	A(学部生)	0	0	0		
	認定単位数	A(学部生)	0	0	0		
FPT University	認定者数	A(学部生)					
	認定単位数	A(学部生)					
年度別認定者数合計			0	0	0	0	0
年度別認定単位数合計			0	0	0	0	0